

国道 438 号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
第 3 冊

東坂元秋常遺跡Ⅱ

2012.10

香川県教育委員会

序文

本書は、国道438号道路改築工事に伴い発掘調査を実施した香川県九亀市飯山町の東坂元秋常遺跡の報告を収録した第3冊です。

今回報告する地区では、平安時代～鎌倉時代の集落跡が見つかりました。そのうち鎌倉時代後半の建物には、周囲に溝を持ち、銅の鑄造を行っていたと考えられる建物があり、県内の中世の鑄造のあり方を示す数少ない事例であることがわかりました。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月

香川県埋蔵文化財センター
所長 藤好 史郎

例言

- 1 本報告書は、国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査書の第3冊で、香川県丸亀市飯山町東坂元字秋常70番地ほかの所在する東坂元秋常遺跡（ひがしさかもとあきつねいせき）の第2次調査の大部分と第3次調査の報告を取録した。なお、第1次調査と第2次調査の一部については、すでに整理作業を実施し、報告書「東坂元秋常遺跡1」を刊行している。
- 2 発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査期間は、次のとおりである。

平成19年度（第2次調査）
期間 平成19年4月1日～平成19年8月31日
担当 文化財専門員 木下晴一、文化財専門員 山元素子、調査技術員 木野戸直

平成20年度（第3次調査）
期間 平成20年4月1日～平成20年8月31日
担当 文化財専門員 山下平重、文化財専門員 森下友子、調査技術員 東原輝明
- 4 調査にあたって、次の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
香川県中讃土木事務所、地元自治会、地元水利組合
- 5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は、山下平重が担当した。
- 6 報告書で用いる座標系は国土座標第IV系（世界測地系）で、方位の北は国土座標第IV系による。また、標高は東京湾平均海面を基準とした。
- 7 遺構は次の略号により表示した。
SH 竪穴建物 SB 掘立柱建物 SP 柱穴跡 SK 土坑 SD 溝状遺構 SX その他の遺構 SR 自然河川跡
- 8 第3章遺構名の後の（ ）内の表記は、付図での遺構の位置する区画（20m四方）を示している。
- 9 石器実測図中、網掛けで表現している部分は摩滅痕を、輪郭線周りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損面は黒で塗りつぶしている。石器石材は特に表記がない限りサヌカイトである。
- 10 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位m）である。

11 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖 2010年版」を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径4mm以上、「中」は0.5mm以上、「細」は0.5mm未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

12 中世土器の年代観については、香川県教育委員会『空港跡地遺跡Ⅳ』2000 を参考にした。

※ 地図は国土地理院地形図を使用しました。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査体制・整理体制	2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序	6
第2節 遺構と遺物	
1 弥生時代中期後半	6
2 弥生時代後期後半	15
3 飛鳥時代	22
4 平安時代	24
5 中世	28
6 近世以降	44
7 包含層等出土遺物	51

第4章 まとめ

56

挿図目次

第1図	道跡位置図	1	第36図	6区SB08平・断面図、出土遺物	36
第2図	周辺道跡	5	第37図	7区SB09平・断面図、出土遺物	37
第3図	調査位置図	7	第38図	1区SK03平・断面図	38
第4図	グリッド割図	8	第39図	6区SK01平・断面図、出土遺物	38
第5図	Ⅱ区東壁、Ⅲ区西壁土層図	9	第40図	6区SK04平・断面図、出土遺物	39
第6図	Ⅱ区落ち込み断面図	10	第41図	7区SK01平・断面図	39
第7図	Ⅳ区南壁、Ⅴ区北・南壁土層図	11	第42図	6区SP87出土遺物	40
第8図	Ⅳ区北・南・西壁土層図	12	第43図	7区SP27出土遺物	40
第9図	1区北・東壁土層図	13	第44図	中世のビット出土遺物	40
第10図	2区東壁・3区東壁・4区西壁・6区東壁上層図	14	第45図	Ⅱ区SD12断面図、出土遺物	41
第11図	Ⅵ区SP50平・断面図、出土遺物	15	第46図	1・3区SD01、1区SD02平・断面図、出土遺物	42
第12図	1・3・6区方形区南溝断面図、出土遺物	16	第47図	6区SD03・04・05断面図	43
第13図	1・3・6区方形区南溝断面図	17	第48図	6区SD03・04・05、7区SD01・02出土遺物	43
第14図	2区SK02平・断面図、出土遺物	18	第49図	7区SD03断面図、出土遺物	43
第15図	5区SK01平・断面図、出土遺物	18	第50図	Ⅲ区SK01平・断面図、出土遺物	44
第16図	弥生時代の包含層出土遺物1	19	第51図	Ⅱ区SK01遺物出土状況平・断面図、出土遺物	45
第17図	弥生時代の包含層出土遺物2	20	第52図	Ⅲ区SK01平・断面図、出土遺物	45
第18図	弥生時代の包含層出土遺物3	21	第53図	近世のビット出土遺物	46
第19図	2区SK01平・断面図、出土遺物	22	第54図	Ⅲ区SD01・07平・断面図	47
第20図	集石遺構平・断面図、出土遺物	23	第55図	Ⅱ・Ⅲ区SD01断面図	48
第21図	7世紀の包含層出土遺物	24	第56図	Ⅱ・Ⅲ区SD01出土遺物	49
第22図	1・3区SB02平・断面図	25	第57図	Ⅲ区SD04出土遺物1	50
第23図	1・3区SB02出土遺物	26	第58図	Ⅲ区SD04出土遺物2	51
第24図	1・6区SB06平・断面図、出土遺物	26	第59図	Ⅲ区SD08出土遺物	51
第25図	1区SK01平・断面図、出土遺物	27	第60図	Ⅴ区SD01平・断面図、出土遺物	52
第26図	1区SP30出土遺物	27	第61図	包含層等出土遺物1	53
第27図	Ⅵ区SB01平・断面図	28	第62図	包含層等出土遺物2	54
第28図	Ⅵ区SB02平・断面図、出土遺物	29	第63図	包含層等出土遺物3	55
第29図	3区SB01平・断面図	30	第64図	遺構変遷図 弥生時代中期後半	57
第30図	1・6区SB03平・断面図、出土遺物	31	第65図	遺構変遷図 弥生時代後期後半	57
第31図	6区SB04平・断面図、出土遺物	31	第66図	遺構変遷図 飛鳥時代	58
第32図	6・7区SB05、SX02、SD01・06平・断面図	33	第67図	遺構変遷図 平安時代	58
第33図	6・7区SB05出土遺物	34	第68図	遺構変遷図 中世	59
第34図	6区SX01出土遺物	35			
第35図	6区SB07平・断面図	36			

表目次

第1表	平成19年度発掘調査体制一覧表	2	第5～26表	東坂元秋常道跡出土土器観察表
第2表	平成20年度発掘調査体制一覧表	2	第27表	東坂元秋常道跡出土金銅器観察表
第3表	平成23年度整理作業体制一覧表	3	第28～30表	東坂元秋常道跡出土石器観察表
第4表	2・4区出土オサカイト製石器	21		

図版目次

図版 1

道跡遺景
道跡遺景

図版 2

II区全景 東から
III区全景 東から

図版 3

IV区全景 西から
V区全景 東から

図版 4

VI区全景 東から
1区全景 東から

図版 5

1区全景 上層遺構 西から
2区調査風景 北東から

図版 6

2区全景 北から
3区全景 東から

図版 7

4区全景 北から
5区全景 北から

図版 8

6区西半 全景 北から
6区東半 全景 北西から

図版 9

7区全景 東から
II区東壁断面

図版 10

III区落ち込み断面
III区A T火山灰層

図版 11

IV区南壁断面 西半
IV区南壁断面 東半 (西半部)

図版 12

V区南壁断面
1区北壁断面 東から

図版 13

1区東壁断面 西から
2区東壁断面

図版 14

3区東壁断面
4区東壁断面

図版 15

6区東壁断面
VI区 SP59 土器出土状況 北から

図版 16

1区方形区南溝 北から
1区方形区南溝 東から

図版 17

1区 SD07 様、土器出土状況 東から
1区 SD07 b b' 断面 東から

図版 18

1区 SD12 断面 西から
1区 SD07 a a' 断面 南から

図版 19

6区 SD08 検出状況 西から
3区 SD02・03 南から

図版 20

2区 SK02 断面 東から
2区 SK02 土器出土状況 東から

図版 21

5区 SD01 断面 東から
2区 SK01 土器出土状況 東から

図版 22

2区 SK01 土器出土状況 東から
2区 SK01 断面 東から

図版 23

2区 SK01 完掘 北東から
2区 集石遺構 北から

図版 24

2区 集石遺構 西から
1区 SB02 東から

図版 25

3区 SB02 東から
1区 SK01 断面 北から

図版 26

1区 SP30 土器出土状況 北から
3区 SB01 東から

図版 27

6区 SB05・SX02 検出状況 東から
6区 SD06 断面 北から

図版 28

7区 SDO4 断面 西から
1区 SK03 断面 北から

図版 29

6区 SK01 遺物出土状況 西から
6区 SK01 遺物出土状況 北東から

図版 30

6区 SK01 断面 西から
6区 SK04 断面 東から

図版 31

7区 SK01 断面 東から
7区 SK01 完掘 南から

図版 32

6区 SP87 断面 西から
6区 SP87 土器出土状況 北から

図版 33

II区 SD12 土器出土状況 北から
1区 SD01・02 断面 北から

図版 34

3区 SD01 断面 南から
6区 SD03 断面 北から

図版 35

7区 SD01 断面 北から
6区 SD05 断面 北から

図版 36

6区 SDO4 断面 北から
7区 SDO2 検出状況 南から

図版 37

7区 SD03 断面 北から
III区 SDO4、SK01 断面 南から

図版 38

II区 SX01 東から
II区 SX01 断面 東から

- 図版 39
 III区 SX01 断面
 II区 SD01 完掘 西から
 図版 40
 II区 SD01 A断面 西から
 II区 SD01 B断面 東から
 図版 41
 II区 SD01 C断面 東から
 II区 SD01 i i '断面 東から
 図版 42
 III区 SD01 j j '断面 西から
 III区 SD04 断面 西から
 図版 43
 III区 SD04 断面 南から
 III区 SD04 完掘 南から
 図版 44
 III区 SD04 完掘 西から
 図版 45
 出土土器 (1)
 図版 46
 出土土器 (2)
 図版 47
 出土土器 (3)
 図版 48
 出土土器 (4)
 図版 49
 出土土器 (5)
 図版 50
 出土土器 (6)
 図版 51
 出土土器 (7)
 図版 52
 出土土器 (8)
- 図版 53
 出土土器 (9)
 図版 54
 出土土器 (10)
 図版 55
 出土土器 (11)
 図版 56
 出土土器 (12)
 図版 57
 打製石版丁・スクレイパー・網片
 石鏃
 図版 58
 楔状石核
 石核
 図版 59
 石鏃
 楔状石核
 図版 60
 打製石版丁・スクレイパー
 石鏃・石鏃
 図版 61
 石核
 銅銭・不明金銅製品
 銅鐸
 楔状石核

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

東坂元秋常遺跡は、平成15年度からの香川県教育委員会の試掘調査で発見された。今回報告するⅡ～Ⅵ区及び1～7区については、平成17年度にⅡ・Ⅲ区(1,370m²)、平成18年度にⅣ～Ⅵ区(860m²)、平成19年度に1～7区(2,210m²)が、試掘調査の結果、東坂元秋常遺跡として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。

第2節 調査の経過

第2次調査は、一部すでに報告されている調査区(Ⅰ区 315m²)のほか、Ⅱ～Ⅵ区(2,230m²)を対象に実施した。出土遺物は、Ⅰ区が4箱(28リットル入り)、Ⅱ～Ⅵ区が43箱である。

第3次調査は、平成20年度当初から予定していた国土交通省からの委託事業が延期になったため、急速当遺跡の発掘事業を行うことになったものである。そのため、実際の現地作業着手は、平成20年5月に入ってからとなり、当初より短期間で調査を終了せざるを得なかったため、作業員を通常の体制より増員して実施した。調査対象面積2,210m²、出土遺物14箱である。

整理作業は、平成23年11月1日から平成24年3月31日まで実施した。



第1図 遺跡位置図

第3節 調査体制・整理体制

発掘調査及び整理作業の体制は、次のとおりである。

第1表 平成19年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	鈴木 健司	所長	渡部 明夫
課長補佐(総括)	武井 壽紀	次長	廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	古田 泉	総務課長	野口 孝一
主任	林 照代	主任	宮田 久美子
文化財グループ		主任	嶋田 和司
課長補佐	藤好 史郎	主任	古市 和子
文化財専門員	森 悟也	調査課	
文化財専門員	信里 芳紀	調査課長	廣瀬 常雄
		文化財専門員	木下 晴一
		文化財専門員	山元 素子
		嘱託(土木)	高嶋 勝美
		嘱託(調査技術員)	木野戸 直

第2表 平成20年度発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	春山 清康	所長	大山 研光
課長補佐(総括)	武井 壽紀	次長	廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	廣瀬 常雄
主任	林 照代	主任	宮田 久美子
文化財グループ		主任	嶋田 和司
主幹(兼)課長補佐	藤好 史郎	主任	古市 和子
主任文化財専門員	森 悟也	調査課	
文化財専門員	乗松 真也	調査課長	廣瀬 常雄
		文化財専門員	山下 平重
		文化財専門員	森下 友子
		嘱託(土木)	砂川 哲夫
		嘱託(調査技術員)	東原 輝明

第3表 平成23年度整理作業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県理蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	炭井 宏秋	所長	藤好 史郎
課長補佐(総括)	亀山 隆	次長	高鍋 正彦
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
副主幹	香西 としみ	総務課長	真鍋 正彦
主任主事	丸山 千晶	副主幹	林 文夫
文化財グループ		主任	古市 和子
課長補佐	西岡 達哉	主任	中川 美江
主任文化財専門員	森下 英治	主任	高木 秀哉
文化財専門員	松本 和彦	主任	広瀬 健一
		資料普及課	
		資料普及課長	森 悠也
		文化財専門員	山下 平重

発掘作業に携わった方々は、次のとおりである。

調査補助員 木全加珠美

整理作業員 森川 理恵

発掘作業員 池田 朱美 池田 清敏 泉 恭介 大浦 哲也 金本 勝行 田尾 貞季

竹井 廣子 常包 義男 寺西 弘子 中川 恒夫 丹羽 早苗 福江 妙子

本井 俊彦 堀田 勉 松永 照子 宮崎 清 三好 一信 山下 實 山田 勝富

行成 健 吉田 滋

整理作業に携わった方々は、次のとおりである。

今井 真紀 岡崎江伊子 香川 和子 川井 依織 北濱 敦子 香西 栄理

台田 安里 竹内 悦子 徳永 貴美

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

今回調査を行った東坂元秋常遺跡は、飯野山南麓で、平地との傾斜変化点付近に位置する。Ⅱ・Ⅲ区は、山裾斜面をカットした平坦地となっている。Ⅱ区南端は、地形図から見ると旧河川の北岸となっている。標高は、15.2m前後である。また、Ⅳ～Ⅵ区、1・3・6・7区及び2・4・5区の北半は、飯野山裾から南東へ舌状に張り出した若干傾斜する平地に立地する。標高は14.9～16mで、6・7区付近が一番高く、東西方向にそれぞれ傾斜している。2・4・5区の南側は1.2m程度の段差があり、旧河川と考えられる。そのため、2・4・5区の南半は基盤層が南へ傾斜し、遺物包含層の堆積が見られる。また、この旧河川は西へ延長し、当遺跡から300mほど西で、南へ屈曲していることが地形図や空中写真で読み取れる。

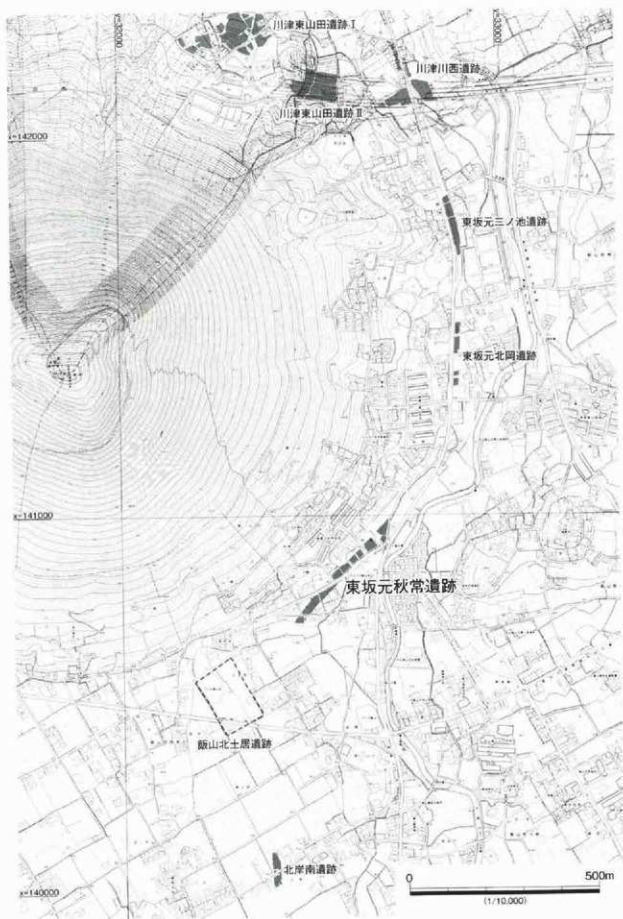
第2節 歴史的環境

周辺の歴史的環境は、2008年刊行の報告書（註1）に一度まとめられている。ここではその後の新知見を報告する。

当遺跡南西300mに位置する飯山北土居遺跡は中世の居館とされているが、平成21年度に発掘調査が実施され、居館を囲む堀跡の可能性が高い溝跡が検出され、居館の可能性が考古学的に確認できた（註2）。また、飯山北土居遺跡の南500mに位置する北岸南遺跡は、平成23年度に発掘調査が実施され、縄文時代と考えられる石器が、弥生時代以降の基盤層から出土している。また、弥生時代後期～終末期の溝跡群、12世紀後半から13世紀初頭の掘立柱建物群が検出されている。この建物群には、ひさしの部分を除くと桁行13m、梁行4mの大型建物が含まれている。ただ、あまり時期差がないと考えられる溝跡より古いことから、建物群の存続時期は短かったと考えられる。

註

- (1) 香川県教育委員会『国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 東坂元秋常遺跡1』2008
- (2) 香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成21年度』2010



第2図 周辺遺跡

第3章 調査の成果

第1節 調査区の概要と層序

調査地は、現状が水田及び宅地跡であり、ほぼ中央に道路がある。道路及び土地区画に合わせて、調査区Ⅱ～Ⅵ区及び1～7区を設定した(第3図)。

現在の道路より北側はⅡ、Ⅲ区である。Ⅱ区の南半は、近世以降のSD01を埋め立てて、平坦面をつくり水田化したと見られる。Ⅱ区の北半では、現在の造成土直下が水平な基盤層となっており、水田化に伴い削平されたものと考えられる。Ⅲ区は、耕作土直下基盤層となっており、水田化に伴い丘陵裾部を削平したものと考えられる。またⅢ区基盤層(第6図11・12・13・13層)のうち、13層はA T火山灰の濃密な包含層で、その上の12層にもA T火山灰が含まれている。

現在の道路より南側は、Ⅳ～Ⅵ区、1・3・6・7区である。Ⅳ区は、造成土下に水田耕作土が残存している。その下は基盤層となっている。Ⅴ区は現耕作土下に旧耕作土があり、その下は基盤層となっている。Ⅵ区はⅤ区と同じ堆積状況である。Ⅵ区の南側は6・7区である。耕作土下に10cm程度の1区と共通する堆積層があり、その下が基盤層となっている。6・7区の南側は1・3区で、耕作土下に数cmの厚さの灰白色シルト層の堆積があり、その下が基盤層となっている。この灰色シルト層は室町時代以降の時期と考えられる1区SD01・02より古いこと及びその色調から中世の堆積層と考えられる。

2・4・5区は、道を挟んで1・3区の南側で、調査対象地の南端の地区である。この調査区の南側は旧河川となっており、これにむかって基盤層の傾斜が見られる。調査区北半は耕作土直下基盤層となっており、水田化に伴う削平が考えられる。南側は基盤層上面が傾斜しそこに弥生時代から古代の遺物包含層の堆積が見られる。この包含層の上面で中世の遺構が検出されている。

第2節 遺構と遺物

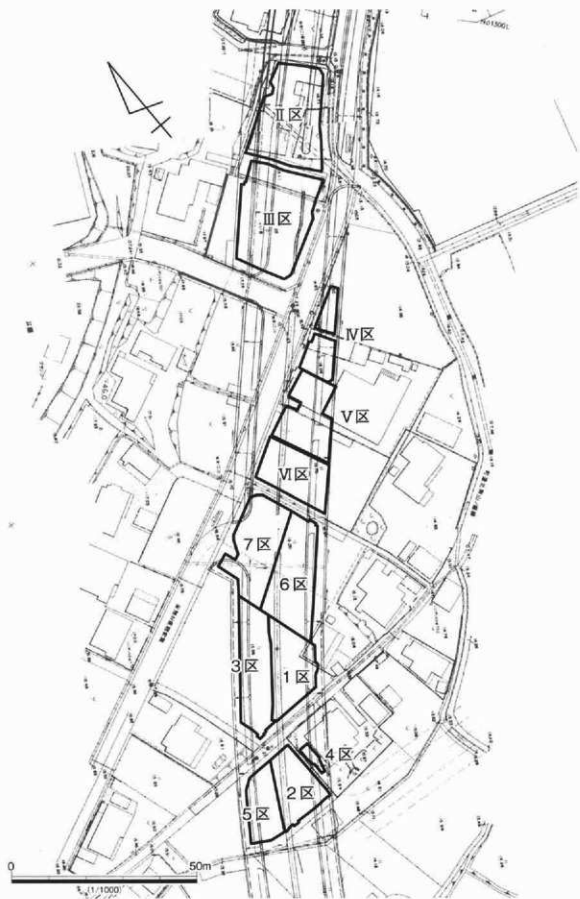
1 弥生時代中期後半

ピット1と方形区画溝が検出されている。また、調査区南端の2区では、包含層から土器がわずかに出土している。

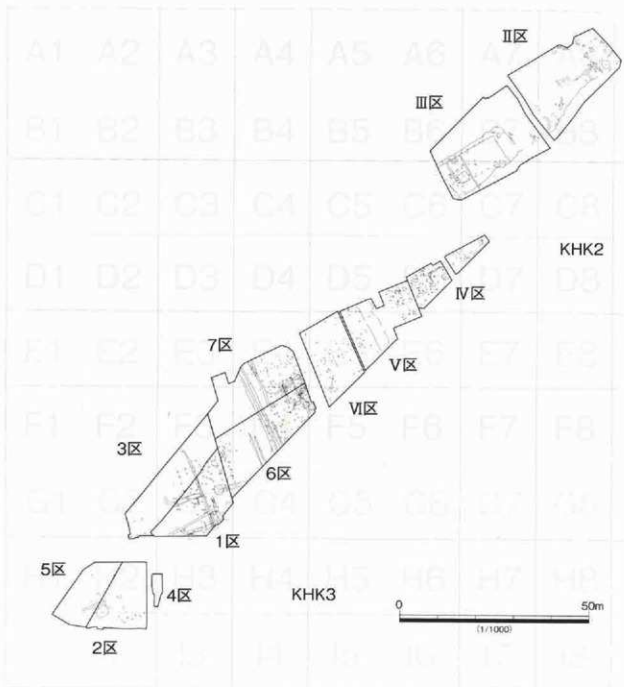
ピット

Ⅵ区 SP59 (E5) (第11図)

弥生時代中期の甕1の底部が置かれた状態で出土している。内面にはヘラズリが見られず、当期の遺構は、ほかに1区の方形区画の溝のみであり、この溝の出土土器と類似することから当期と考えられる。



第3図 調査位置図



第4図 グリッド割図

三区調査区東部

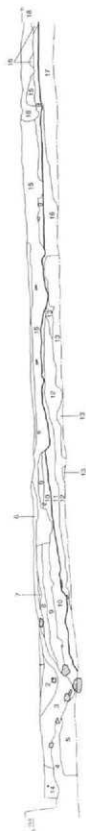


- 目録調査区東部土層
- 1 20195-1 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 2 20195-2 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 3 20195-3 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 4 20195-4 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 5 20195-5 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 6 20195-6 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 7 20195-7 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 8 20195-8 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)
 - 9 20195-9 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土、礫山(河口)付粘土(厚層状)

三区調査区西部



- 目録調査区西部土層
- 1 20195-1 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 2 20195-2 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 3 20195-3 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 4 20195-4 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 5 20195-5 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 6 20195-6 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 7 20195-7 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 8 20195-8 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土
 - 9 20195-9 黒色粘土(中)礫層付土、礫付土



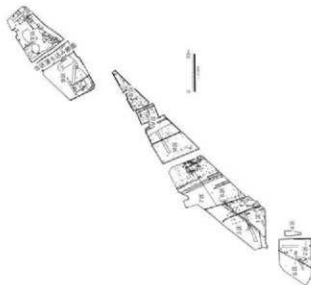
土層
石

0 2m
(1:100)

調査地質断面図

- 1 2575-1 第四系土層上、近代河成扇状地層の砂とシルト層
- 2 2576-2 A1 4.5Mの礫層、砂層、シルト層に成り、湖沼シルト
- 3 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層
- 4 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 5 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 6 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 7 2574-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 8 10402 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 9 2575-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 10 2575-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層

- 11 2575-3 第四系土層上、近代河成扇状地層の砂とシルト層
- 12 2576-2 A1 4.5Mの礫層、砂層、シルト層に成り、湖沼シルト
- 13 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層
- 14 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 15 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 16 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層
- 17 2576-2 第四系礫層、砂層、シルト層、高砂土、高砂土、シルト層



第4図 Ⅱ区基岩及び断面図

IV区調査区南壁①



IV区調査区南壁①土層

- 1 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 表層土
- 2 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 中層土
- 3 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 下層土 (小塚式C)
- 4 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)
- 5 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)
- 6 2575.2 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)

IV区調査区南壁②



V区調査区北壁



V区調査区南壁



- V区調査区北壁、南壁
- 1 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 表層土
 - 2 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 中層土
 - 3 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 下層土 (小塚式C)
 - 4 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)
 - 5 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)
 - 6 1566.1 褐色粘土層 (小塚式C) 最下層土 (小塚式C)



M区南區北型



M区南區西型



M区南區東型



- M区南區西土層
 1. 2.514之第四層砂岩土層
 2. 2.514之第三層砂岩土層
 3. 2.514之第二層砂岩土層
 4. 2.514之第一層砂岩土層
 5. 3.0m以下之第四層砂岩土層
- M区南區東土層
 1. 2.514之第四層砂岩土層
 2. 2.514之第三層砂岩土層
 3. 2.514之第二層砂岩土層
 4. 2.514之第一層砂岩土層
 5. 3.0m以下之第四層砂岩土層
- M区南區北土層
 1. 2.514之第四層砂岩土層
 2. 2.514之第三層砂岩土層
 3. 2.514之第二層砂岩土層
 4. 2.514之第一層砂岩土層
 5. 3.0m以下之第四層砂岩土層

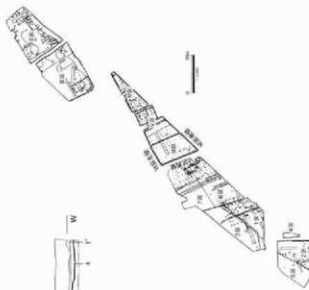


圖8 M区北·西·南·東土層圖

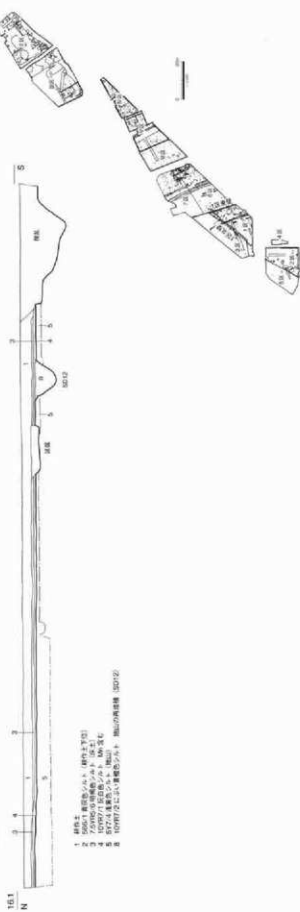
1 区調査区北型



- 標高上
- 1 560/1 調査区ノット 標高上ノット
 - 2 570/10 調査区ノット 標高上ノット
 - 3 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 4 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 5 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 6 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 7 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 8 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 9 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 10 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 11 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 12 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 13 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 14 577/4 調査区ノット 標高上ノット



1 区調査区南型



- 標高上
- 1 560/1 調査区ノット 標高上ノット
 - 2 570/10 調査区ノット 標高上ノット
 - 3 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 4 577/4 調査区ノット 標高上ノット
 - 5 577/4 調査区ノット 標高上ノット

2区調査区横型



- 1 調査区
- 2 5771 調査区シット 調査区 調査区
- 3 調査区 調査区
- 4 調査区 調査区
- 5 調査区 調査区
- 6 調査区 調査区
- 7 調査区 調査区

3区調査区横型



- 1 調査区
- 2 調査区 調査区
- 3 調査区 調査区
- 4 調査区 調査区
- 5 調査区 調査区

4区調査区横型

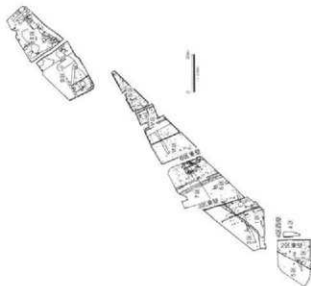


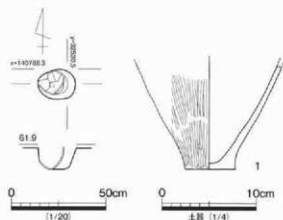
- 1 調査区
- 2 調査区 調査区
- 3 調査区 調査区
- 4 調査区 調査区
- 5 調査区 調査区
- 6 調査区 調査区

6区調査区横型



- 1 調査区
- 2 調査区 調査区
- 3 調査区 調査区
- 4 調査区 調査区
- 5 調査区 調査区
- 6 調査区 調査区





第11図 VI区SP59平・断面図、出土遺物

1・3・6区方形区画溝 (G3・G4) (第12・13図)

1区SD07・10・11・12、6区SD08、3区SD02・03及び1区SK05より構成される。このうちSD08は平安時代の土坑より古い。SD10とSD11の新旧関係は不明である。区画の規模は9m四方前後である。幅約1m、深さは最大約55cmである。また、1区SD07、3区SD03は、3区SD02より新しい。中心に主体部らしきものは無い。溝からは少量の弥生土器2～7のほか、人頭大の礫が出土している。特にSD07からは溝屑に沿うように出土している。出土土器には、明確にヘラケズリが認められないこと、2・3から中期後半古段階の時期と考えられる。

2 弥生時代後期後半

調査区南端の2・5区で遺構がわずかに見られる。

土坑

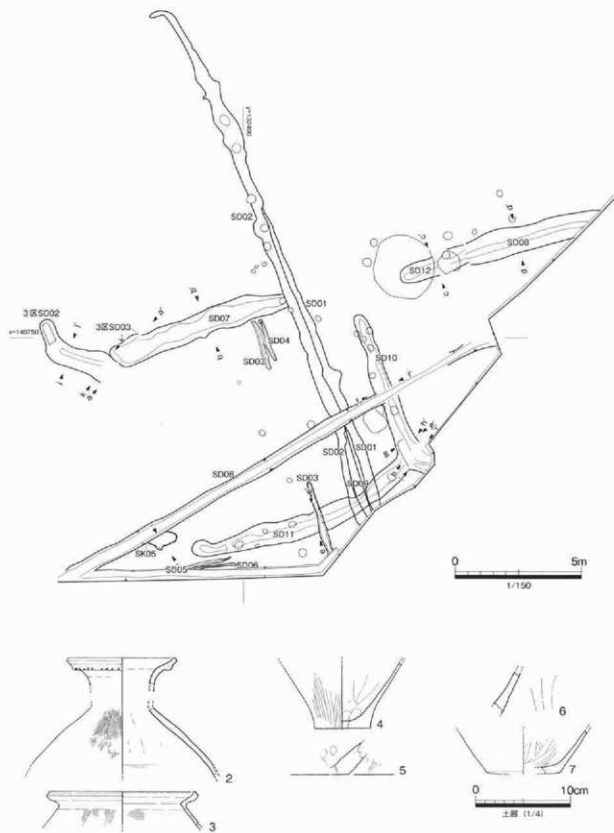
2区SK02 (H2) (第14図)

TK217型式期の土坑SK01より古い。ほぼ完形の弥生土器8と9が出土している。8から下川津Ⅲ式の時期と考えられる。

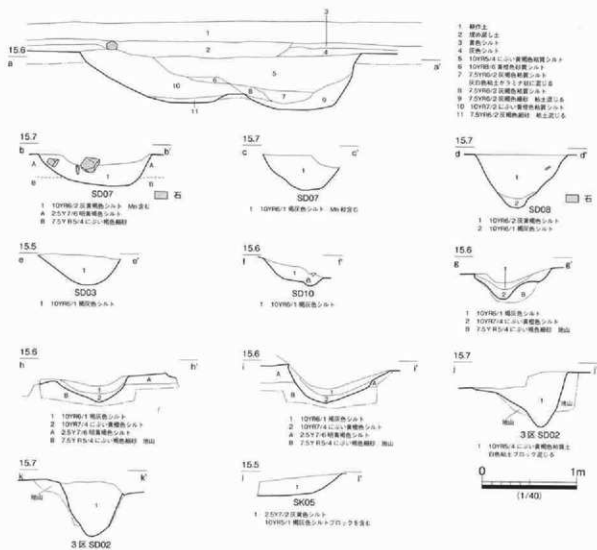
溝

5区SD01 (H2) (第15図)

最大幅1m、深さ15cm程度の溝である。弥生土器甕10・11が出土している。底部の破片で、詳細な時期は不明であるが、付近にある当期の遺構は、上記2区SK02のみであることから、同時期と考えられる。



第 12 图 1·3·6 区方形区画坑平面图、出土遗物



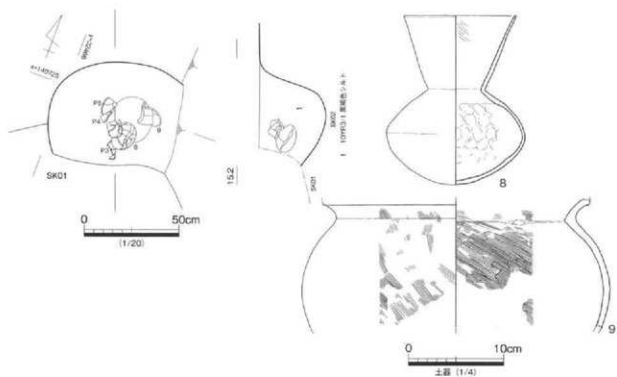
第 13 図 1・3・6区方形区画断面図

包含層 (H2・I2) 出土の弥生時代の遺物 (第 16～18 図、第 4 表)

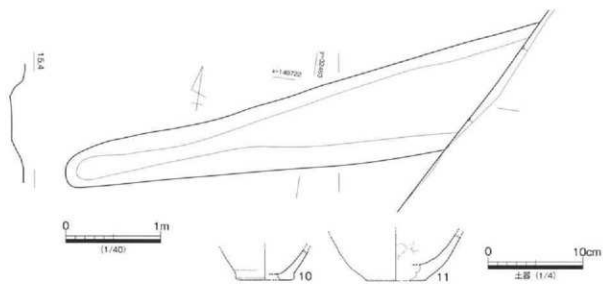
2・4区の南半、5区の南東隅は、基盤層が南にある旧河川に向かい落ち込んでおり、黒色粘土層の堆積が見られる。この黒色粘土層の上では中世のピットが検出されている。黒色粘土層からは、弥生土器及び須恵器等が出土する。また、サスカイトの石核・小剥片も少なからず出土しており、弥生時代の石器製作が近辺で行われていたことが考えられる。ここでは、弥生土器及びサスカイト製石器について報告する。

弥生土器は、中期後半から後期後半のもの 12～19 が出土している。また、20・21 は遺構検出時等に出土したもので、20 は 13 と同一個体の可能性がある。

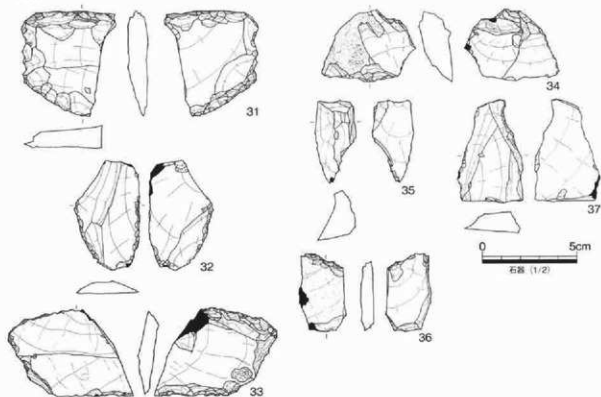
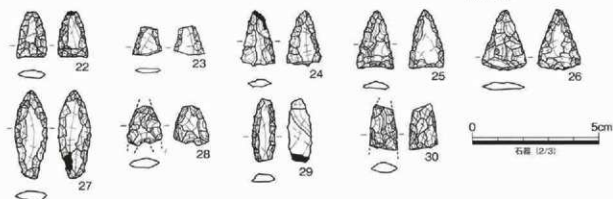
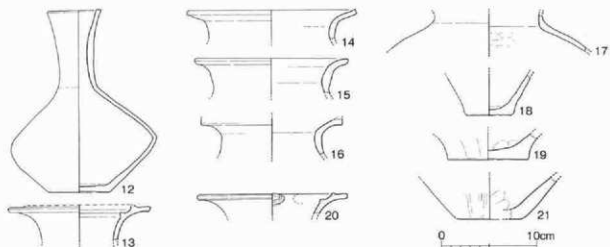
2・4区から出土したサスカイト製石器の一覧は、第 4 表のとおりである。このうちの一部を実測した。22～30 は、石鏃である。31 は打裂石廔丁である。32・33 は、スクレイパーである。34 は、二次加工ある剥片である。35・36 は、縦長剥片である。37 は、板状剥片を分割したものである。38～42 は、石核である。43～54 は、楔状石核である。



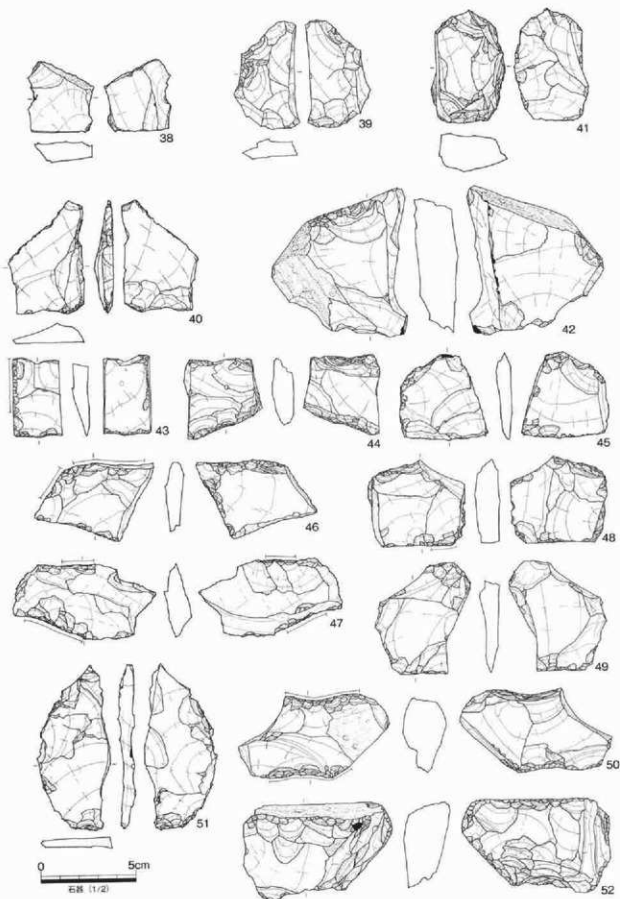
第 14 図 2区 SK02 平・断面図、出土遺物



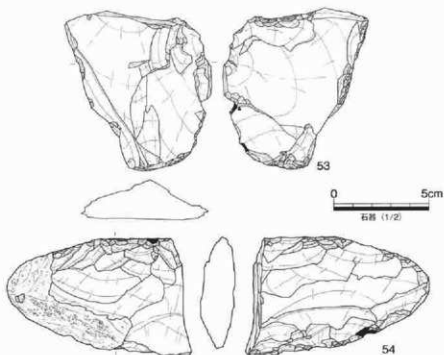
第 15 図 5区 SD01 平・断面図、出土遺物



第 16 図 弥生時代の包含層出土遺物 1



第17図 弥生時代の包含層出土遺物2



第18図 弥生時代の包含層出土遺物3

第4表 2・4区出土サヌカイト製石器

(重量g)

打点あり剥片						打点なし剥片		砕片 (3cm以下)		二次加工ある剥片		板状石核	
平頭打面		窪状打面		切り打面		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
13	91.49	44	221.7	8	81.15								

石核		石核分節		板状剥片分節片		石鏃		スクレイパー		石瓶丁		総計	
点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
3	56.89	12	311.8	14	240.8	10	8.38	3	55.58	1	35.19	606	2409

3 飛鳥時代

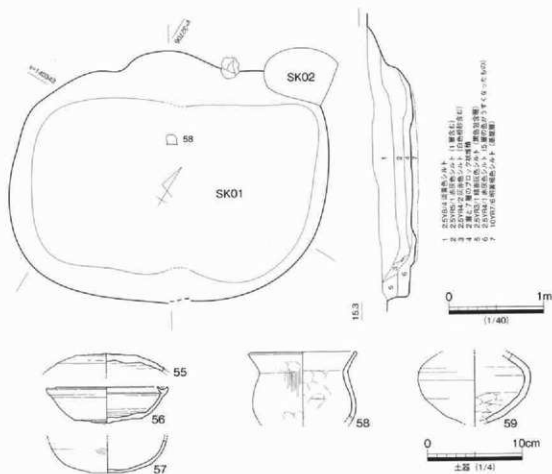
調査区南端の2・5区で遺構がわずかに見られる。

2区SK01 (H2・I2) (第19図)

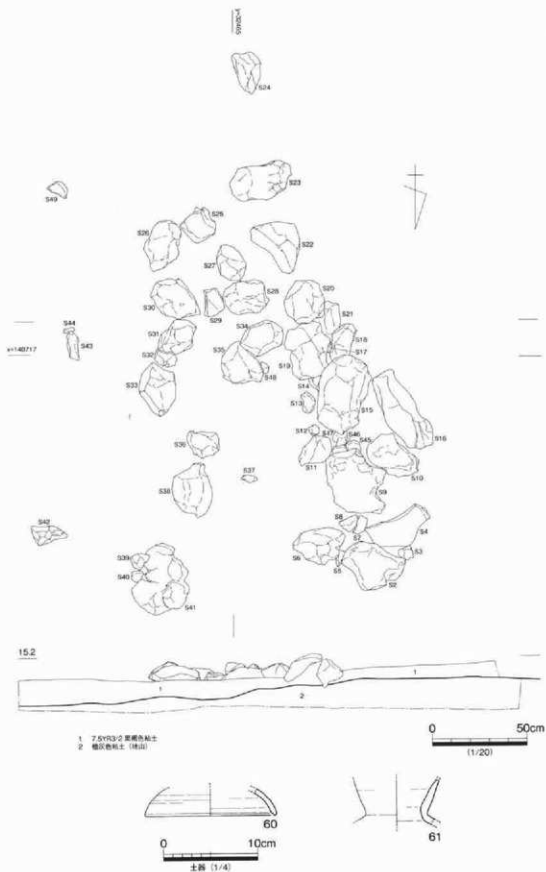
平面形がほぼ方形である。北辺中央がややくぼんでいるため、竪穴建物の竈部分の可能性もあるが、この付近に焼土や炭はみられない。また規模も通常の竪穴建物よりも小さいため、竪穴建物ではないと考えられる。遺物は、須恵器55・56、土師器57・58が出土している。完形品の56は、北西隅斜面の床面付近から、58は床面中央やや北で出土した。56からTK217型式の時期と考えられる。須恵器59は、発掘作業時は、隣接するSK02出土と認識していたが、SK02はほぼ完形の弥生後期後半の土器が出土していることから7世紀代に下ることは考えられず、SK01との境界付近で出土したもので、SK01から出土したとした方がよい。

集石遺構 (I2) (第20図)

2区黒色粘土層の包含層を掘削中に、人頭大の垂角礫が集中する部分を検出した。付近からは須恵器60・61が出土しているので、当期の遺構と考えられる。礫には整列したような状況は認められず、性格は不明である。



第19図 2区SK01 平・断面図、出土遺物



第20図 集石遺構平・断面図、出土遺物

包含層 (H2・I2) (第21図)

2・4・5区で見られた包含層の遺物のうち、当期のものをここで報告する。須志器62～65が出土している。

4 平安時代

調査区中央の1・3区で、庇付の掘立柱建物とその周辺にのみわずかに遺構が見られる。

1・3区SB02 (G3) (第22・23図)

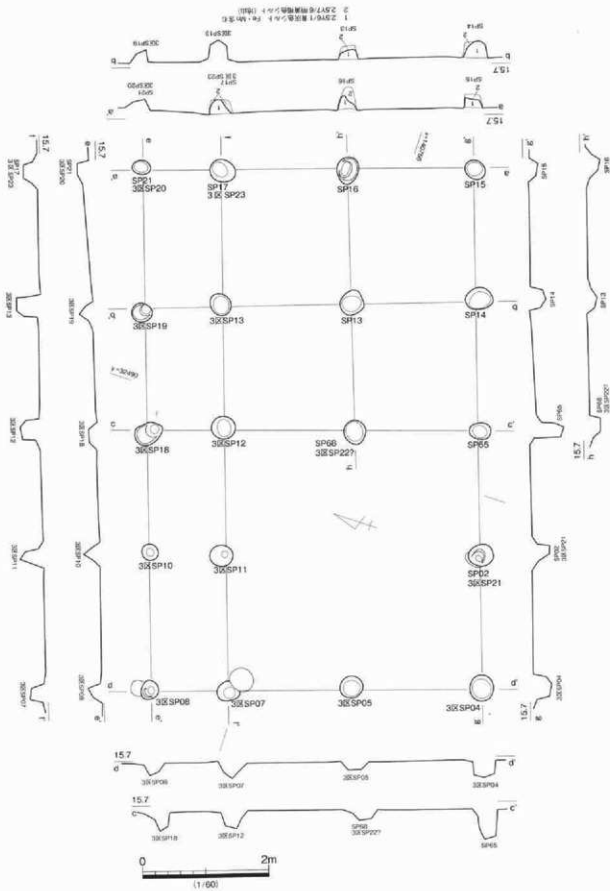
一番北の柱穴列とその南の柱穴列の間隔は、その南側の柱穴列の間隔よりやや狭いことから、建物本体の柱穴列ではなく、庇の柱穴列と考えられる。また一番南の柱穴列の南側には、南側の庇の柱穴と考えてもよい位置にSP37があるが、西側に柱穴列を形成するものがないため、南側は庇がないものとする。したがって、北側庇を除いた建物の規模は、桁行4間(8.3m)×梁行2間(4.0m)で、ほぼ同時期と考えられるまんのう町買田岡下遺跡(註)のSB20とほぼ同じ規模である。主軸方位は、N71°Eで、現在の地割とほぼ平行する。

出土遺物は、3区SP11から土師器66・楠葉産黒色土器B類椀67、1区SP16から黒色土器A類椀68・黒色土器B類椀69、1区SP17から黒色土器A類椀70が出土している。67から10世紀後半頃と考えられる。

(註) 香川県教育委員会『買田岡下遺跡』2004



第21図 7世紀の包含層出土遺物



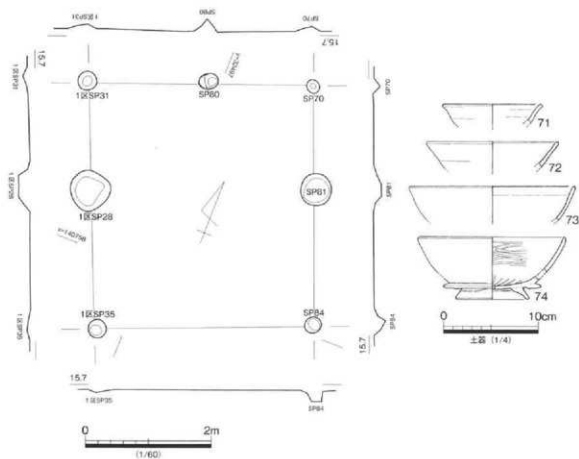
第22図 1・3区SB02平・断面図

1・6区SB06 (F3・G3) (第24図)

規模は、桁行2間(3.9m)×梁行2間(3.5m)で、主軸方位はN22°Wである。出土遺物は、SP28から土師器、黒色土器が出土している。74は黒色土器A類の台付椀で、深椀タイプで10世紀後半の時期と考えられる。



第23図 1・3区SB02出土遺物



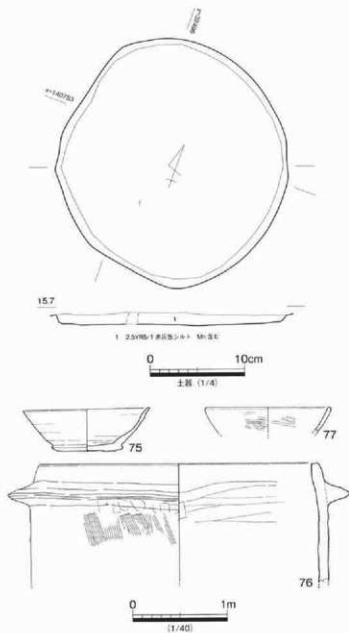
第24図 1・6区SB06平・断面図、出土遺物

1区SK01 (G3) (第25図)

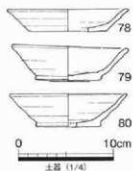
平面形がほぼ円形の土坑である。ほぼ同時期と考えられる掘立柱建物SB03に近接することから、同建物に関連するものと考えられる。土器片の出土量は多くないものの、廃棄土坑のような性格が考えられる。土師器75・76、黒色土器A類碗77が出土している。土師器の杯から10世紀後半頃の年代が考えられる。

1区SP30 (G3) (第26図)

土師器78～80が出土している。土師器の杯から10世紀後半頃の年代が考えられる。



第25図 1区SK01平・断面図、出土遺物



第26図 1区SP30出土遺物

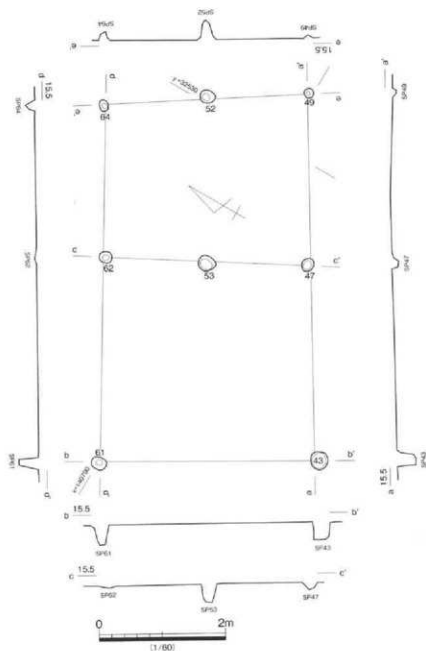
5 中世

中世の遺構は、Ⅳ～Ⅵ、6・7区に建物跡を中心とする遺構が見られる。また、調査区南端でも、弥生時代から古代の包含層の上面でわずかなピット群が見られる。

掘立柱建物

Ⅵ区SB01 (E5) (第27図)

規模は桁行2間(5.8m)×梁行2間(3.4m)で、主軸方位はN59°Eである。柱穴からは土器小片がわずかに出土しているのみである。主軸方位、柱穴の規模から中世の時期と考えられる。



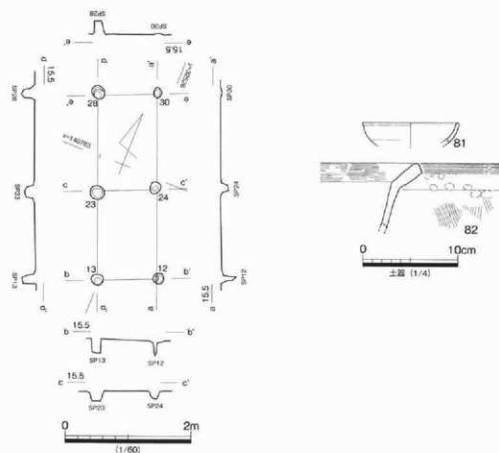
第27図 Ⅵ区SB01平・断面図

Ⅵ区SB02 (E5) (第28図)

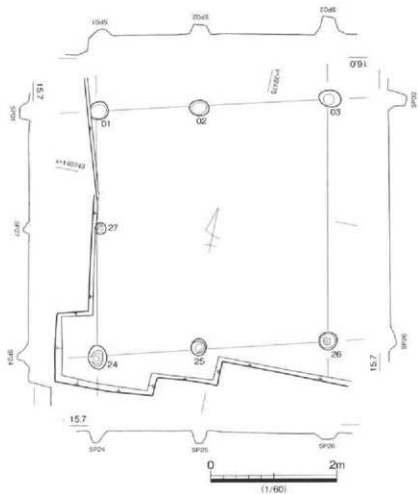
規模は桁行2間(2.9m)×梁行1間(0.9m)で、主軸方位はN22°Wである。SP13からは土師器杯81、SP28からは土師器鍋82が出土している。空港跡地遺跡分類では土師器杯がDⅡ-6型式、土師器鍋がA1型式で、13世紀後半頃の時期が考えられる。

3区SB01 (G2) (第29図)

柱穴列は調査区西側へ続く可能性があり、正確な規模は確定できないが、桁行2間(3.9m)×梁行2間(3.6m)の建物としておく。主軸方位は、N12°Wである。出土遺物は土器細片が少量出土しているのみで、そのうち3区SP02から黒色土器B類の細片が出土していることから、平安時代後半以降の建物と考えられる。柱配置がやや規格性が低いことから中世の建物の可能性が高い。



第28図 Ⅵ区SB02平・断面図、出土遺物



第29図 3区SB01平・断面図

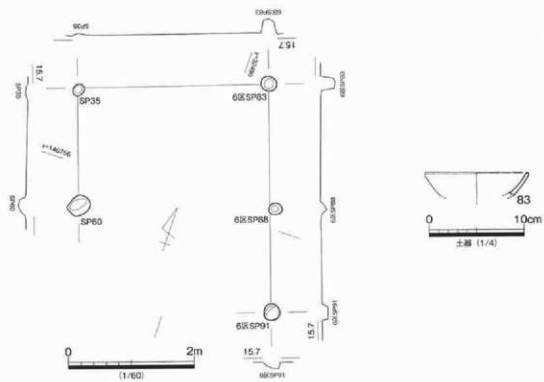
1・6区SB03 (G3・G4) (第30図)

規模は、桁行2間(3.6m)×梁行1間(3m)で、主軸方位はN19°Wである。

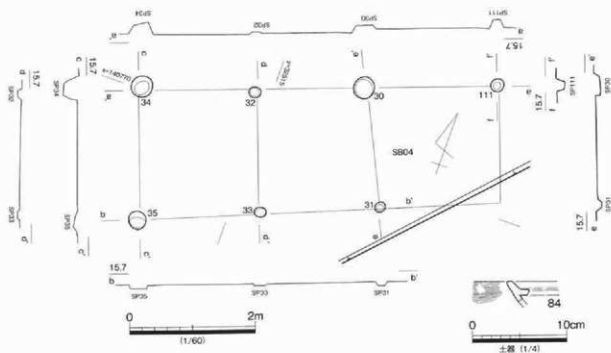
SP60から土師器杯83が出土しているほか、黒色土器A類等の細片が少量出土しているが、83は空港跡地遺跡分類DⅡ-6型式で、13世紀後半頃の時期と考えられる。

6区SB04 (F4) (第31図)

西側柱穴のうちSP35が浅いことから、一部の柱穴は調査区外にあると考えられるが、現状の規模は桁行3間(5.7m)×梁行1間(2.0m)で、主軸方位はN70°Eである。出土遺物は、SP34から土師器足釜84が出土している。他の遺構の時期からも、13世紀後半頃と考えられる。



第30图 1・6区SB03平・断面图、出土遗物



第31图 6区SB04平・断面图、出土遗物

6・7区SB05 (E4・F4) (第32・33図)

周溝を持つ総柱の建物跡である。東端は、周溝が途中までしか検出できていないため、全体の規模は不明であるが、現状で桁行2間(4.7m)×梁行2間(3.7m)である。建物内にあったと考えられるSX02及びその近辺からは鋼の製造時に発生する径数mmの鋼滴7点が出土していること、SD06その他の遺構等から銅滓が3点(142～144)出土していることから、この建物は、銅鑄造の工房の可能性がある。

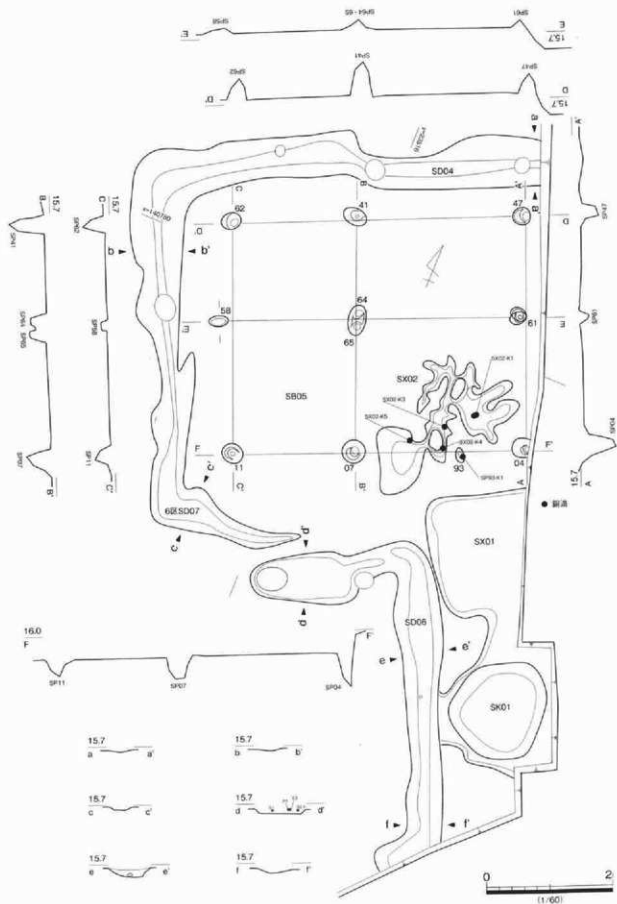
出土遺物は、85～95が柱穴から出土した。85・86はSP04から出土した土師器皿及び西村産須恵器碗である。87～89は、SP07から出土した土師器である。90はSP11から出土した土師器である。91はSP264から出土した土師器杯である。92・93はSP47から出土した土師器である。94はSP62から出土した土師器杯である。95はSP64・65から出土した土師器杯である。

96・97はSX02から出土した土師器皿及び西村産須恵器碗である。98～125は6区SD06から出土した。98～123は土師器である。124は西村産須恵器杯である。125は青白磁壺である。126～140は、6区SD07及び7区SD04(同一の溝)から出土した。126～137は土師器である。138は東播磨系須恵器鉢である。139は須恵器鉢で、138と同一個体の可能性がある。140は中国産白磁碗である。141は6区SD06から出土した砥石である。上記の銅滓は他遺構から出土したものも含めここで報告する。142は6区SD06から出土した。143は6区SD06の東に隣接するSX01から出土した。144は、当遺構から10m程度西側にあるSD03から出土した。

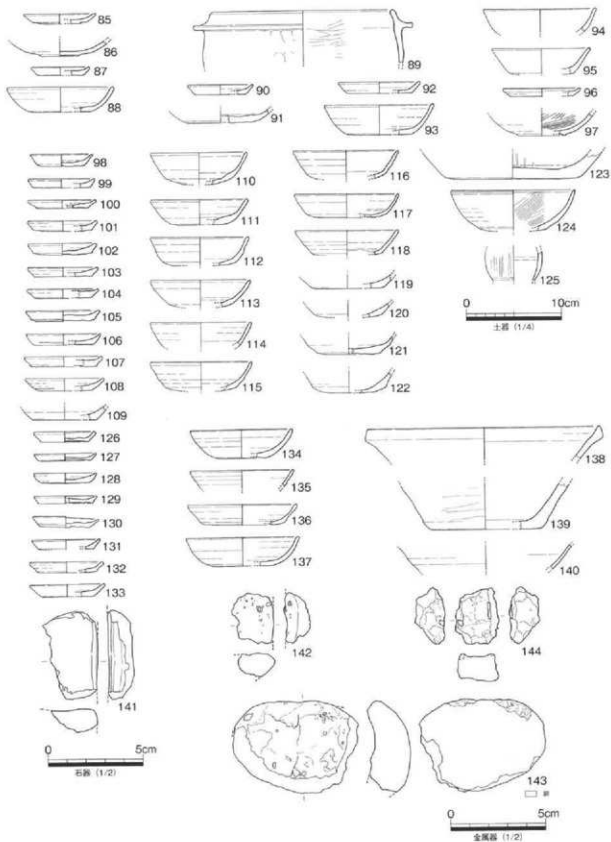
出土遺物の時期は、空港跡地遺跡分類で土師器皿がBⅢ-2～4型式、土師器杯がDⅡ-6型式、西村産須恵器碗がAⅡ-10型式であり、中世Ⅱ-3～4期(13世紀後半頃)と考えられる。また、東播磨系須恵器鉢は、森田稔編年(註)の第Ⅱ期2段階から第Ⅲ期1段階で、12世紀末から13世紀の時期と考えられる。

以上から、当遺構の時期は、13世紀後半と考えられる。

(註) 森田稔「中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』1995



第 32 图 6·7 区 SB05、SX02、SD04·06 平·断面图



第33图 6·7区SB05出土遗物

6区SX01 (F4, F5) (第32・34図)

平面形が不定形な遺構である。SX01との前後関係は不明である。前記のSB05に近接し、同時期と考えられることから関連する施設あるいは周溝の一部かもしれない。出土遺物は、145～157が土師器である。158は須恵器椀である。159～161は西村産須恵器椀である。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-3～4型式、土師器杯がDⅡ-5・6型式で、中世Ⅱ-3～4期(13世紀後半頃)と考えられる。

6区SB07 (G3) (第35図)

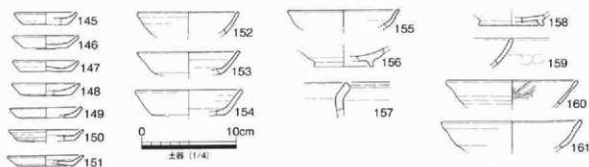
規模は桁行3間(3.4m)×梁行1間(1.8m)で、主軸方位はN21°Wである。出土遺物は、土師器の小片が数点出土しているのみである。柱穴の規模が小さいことから中世の遺構と考えられる。

6区SB08 (F4) (第36図)

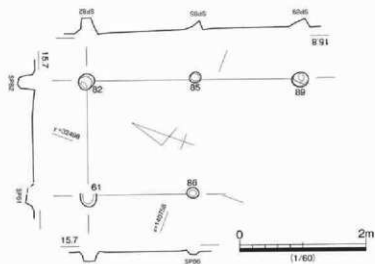
規模は1間(3.3m)×1間(3.0m)で、主軸方向はN22°Wである。出土遺物は、SP20から土師器162～167、黒色土器A類椀168、西村産須恵器椀169、鉢170が出土している。SP37からは龍泉宮系青磁椀I-5類171、SP53からは土師器皿172が出土している。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-4型式、土師器杯がDⅡ-6型式、須恵器鉢がE-4型式で、中世Ⅱ～Ⅲ期(13世紀後半頃)と考えられる。

7区SB09 (E4) (第37図)

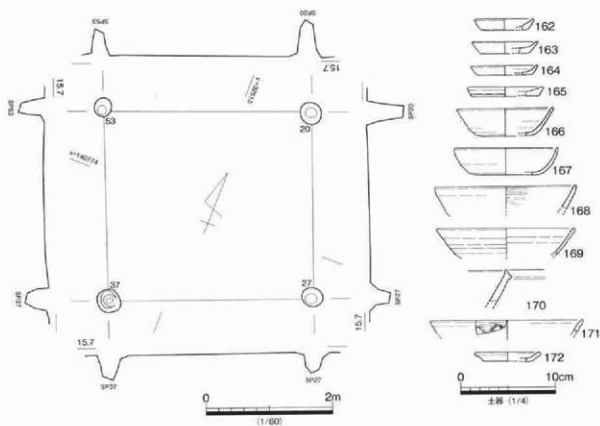
規模は桁行2間(6.5m)×梁行1間(2.9m)で、主軸方位はN67°Eである。SP10・19も建物を構成する可能性はある。また、周囲の小ピット群は、庇を構成する柱穴になる可能性がある。出土遺物は土師器の小片がわずかに出土しており、SP26からは土師器杯173が出土している。建物の方向、柱穴の規模から中世の時期と考えられる。



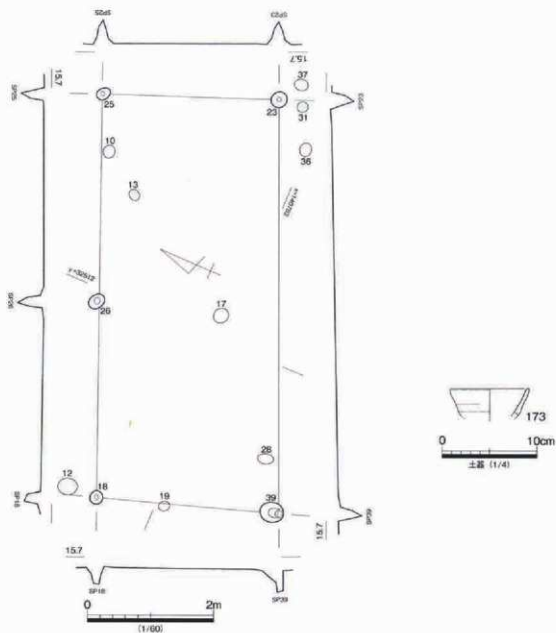
第34図 6区SX01出土遺物



第35图 6区SB07平·断面图



第36图 6区SB08平·断面图、出土遗物



第37図 7区SB09平・断面図、出土遺物

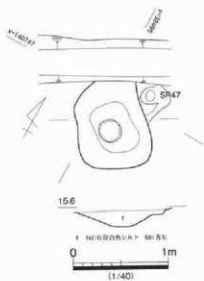
土坑

1区SKO3 (G3) (第38図)

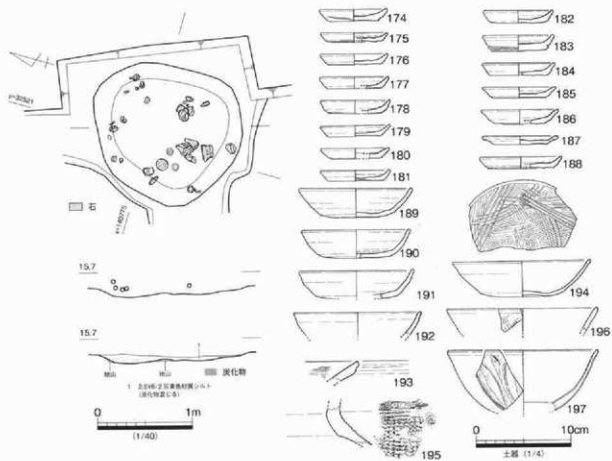
遺物は土師器小片が少量出土しているのみである。

6区SKO1 (F5) (第39図)

6区SKO1を発掘後に検出したが、埋土はよく似ており、新旧関係は明らかではない。埋土から、人頭大以下の礫、炭化物、土器片が出土している。廃棄土坑と考えられる。土師器174～193、西村産須恵器杯194、亀山焼195、中国産青磁I-5類196・197等が出土している。土師器皿は、空港跡地遺跡分類のBⅢ-4.3.2型式と考えられこのうち4型式が多い。杯は、DⅡ-4・5型式と考えられ、



第38图 1区 SK03平·断面图



第39图 6区 SK01平·断面图、出土遗物

このうち5型式が多い。以上から中世Ⅱ-3~4期で、13世紀後半と考えられる。

6区SK04 (F4) (第40図)

6区SX01より古い。土師器杯198が出土している。13世紀後半頃の遺構と考えられる。

7区SK01 (F4) (第41図)

埋土に炭及び礫を含む。土師器杯199及び埋土から中世の遺構と考えられる。

ビット

6区SP87 (G3) (第42図)

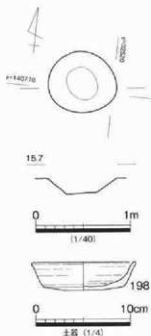
平面形が楕円形で、長径70cm、短径42cm、深さ10cm程度である。土師器杯200~210、須恵器甕が出土している。土師器杯には完形に近いものもあるが、整列された状況ではないため、廃棄土坑と考えられる。土師器杯は空港跡地遺跡分類のDⅡ-5・6で、13世紀後半の時期が考えられる。

7区SP27 (F4) (第43図)

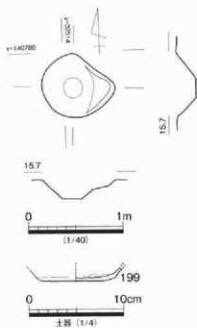
径40cm、深さ50cm程度である。完形品及びそれに近い土器が出土している。211~218はいずれも土師器である。空港跡地遺跡分類では、土師器皿がBⅢ-4型式、土師器杯がDⅡ-6型式で、中世Ⅱ-3~4期(13世紀後半頃)が考えられる。

中世のビット出土遺物 (第44図)

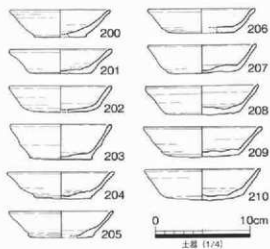
中世の他のビットから出土した土器をまとめて掲載する。出土位置は観察表を参照されたい。219~245は土師器である。246は須恵器である。247・248は西村産須恵器碗である。249・250は瓦器碗である。251は、砥石である。252は初誘年1009年の銅銭祥符元寶である。



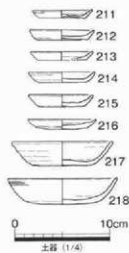
第40図 6区SK04平・断面図、出土遺物



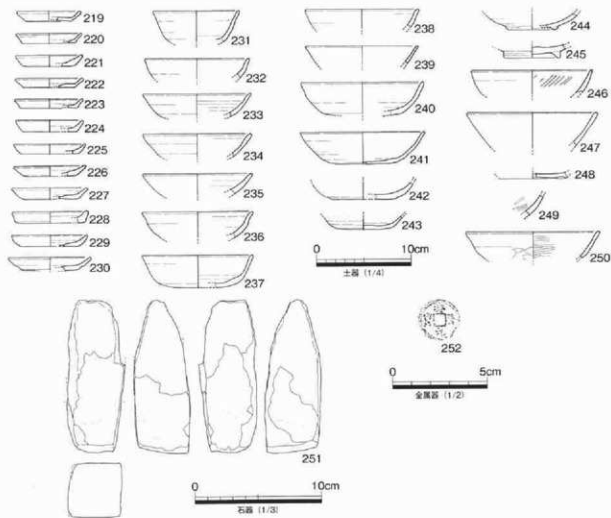
第41図 7区SK01平・断面図



第 42 図 6 区 SP87 出土遺物



第 43 図 7 区 SP27 出土遺物



第 44 図 中世のビット出土遺物

溝

Ⅱ区SD12 (B8) (第45図)

北端部で土器が集中して出土している。須恵器253・254や土師器小片が出土している。土師器小片は胎土から中世の時期と考えられるが、溝の時期は近世以降に下る可能性がある。

1・3区SD01、1区SD02 (G3) (第46図)

ほぼ同じ位置にある溝で、1区SD01のほうがSD02より新しい。またSD01は近世以降のピットSP01より古い。SD02からは、15世紀頃の中国産雷文帯青磁碗255が出土しているので、この溝は中世後半期のものと考えられる。

6区SD03、7区SD01 (E4, F4) (第47・48図)

幅0.5～1m、深さ10～15cmである。出土遺物は、土師器256～263、瓦器碗264、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類265がある。空港跡地遺跡分類では土師器皿がBⅢ-4型式、土師器杯がDⅡ-6型式で、中世Ⅱ-3、4期で13世紀後半頃と考えられる。

6区SD05 (F4) (第47・48図)

幅20～40cm、深さ7cm程度である。7区SD03と同一の溝の可能性もある。出土遺物は、土師器碗266、須恵器碗267・壺268、不明金銅製品269がある。溝の方向から6区SD03と同じ時期と考えられる。

7区SD02、6区SD04 (E4,F4) (第48図)

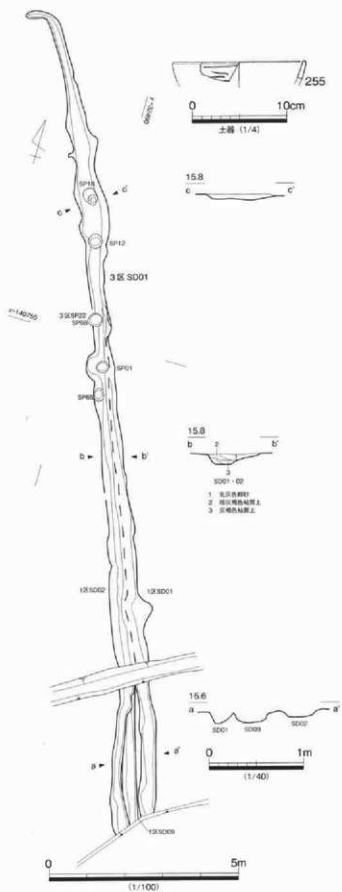
幅20～80cm、深さ5～10cm程度である。底から碟が出土している。出土遺物は、土師器皿270、西村産須恵器碗271、中国産白磁碗272である。6区SD03・7区SD01とはほぼ平行することから同じ時期と考えられる。

7区SD03 (E4,F4) (第49図)

幅40～60cm、深さ5～10cm程度である。6区SD05の延長の可能性もある。出土遺物は、土師器273～276、西村産須恵器277・278、中国産白磁皿279、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5類280、砥石281である。13世紀後半頃の時期が考えられる。



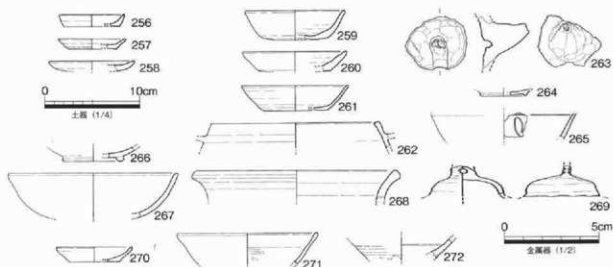
第45図 Ⅱ区SD12断面図、出土遺物



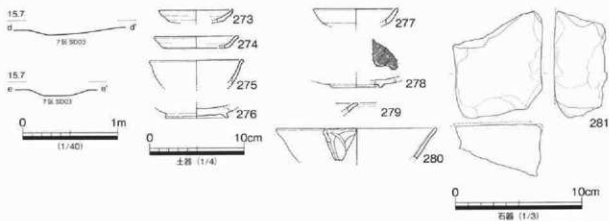
第 46 图 1·3 区 SD01、1 区 SD02 平·断面图、出土遗物



第47图 6区SD03·04·05断面图



第48图 6区SD03·04·05、7区SD01·02出土遗物



第49图 7区SD03断面图、出土遗物

6 近世以降

調査区北端のⅡ・Ⅲ区は、近世以降の遺構がほとんどである。

Ⅲ区SK01 (B7) (第50図)

SD04の南北方向の古い溝が埋没途上に、掘り込まれた土坑である。染付碗282～284などが出土している。

Ⅱ区SX01 (A8) (第51図)

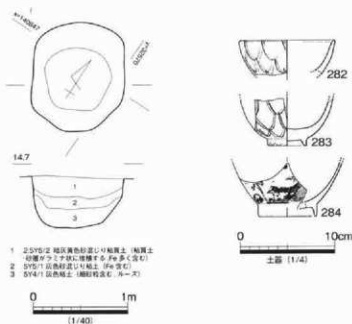
2段掘りの遺構である。礫、石臼を現状に積み上げ、井戸側のようにしている。ただ、底面は砂礫層ではないため、井戸ではなく水溜と考えられる。染付碗285、陶胎染付碗286などが出土している。

Ⅲ区SX01 (C6、C7) (第52図)

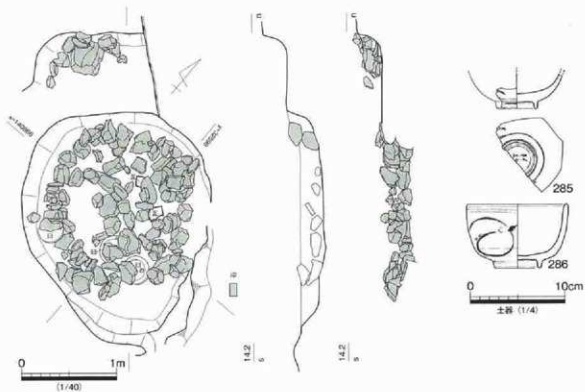
平面形が正方形の遺構である。中心よりやや南東側が土坑状になっている。出土遺物は、陶器皿287、染付碗288、陶胎染付碗289などがある。

ビット出土遺物 (第53図)

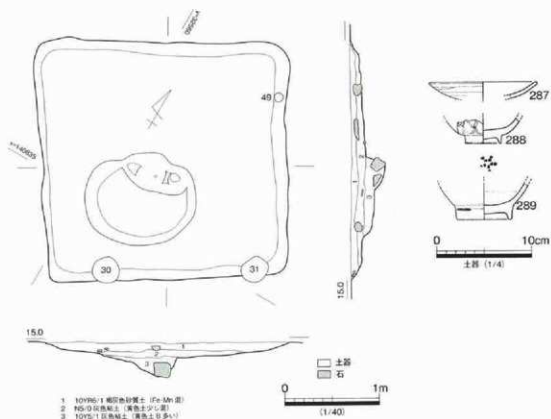
Ⅲ区SP20から陶器碗290、Ⅲ区SP30から陶器碗291・292が出土している。



第50図 Ⅲ区SK01平・断面図、出土遺物



第51图 II区SX01遺物出土状況平・断面図、出土遺物



第52图 III区SX01平・断面図、出土遺物



第53図 近世のピット出土遺物

Ⅱ、Ⅲ区SDO1 (C7~A8) (第54~56図)

調査区南壁沿いに検出された大溝である。溝の北半分のみが調査可能であった。Ⅱ・Ⅲ区は丘陵端部を削平した地形と見られるが、Ⅱ区SDO1は丘陵裾を等高線にほぼ平行に流下するものと見られる。現在の用水路に平行することから、その前身の溝と考えられる。

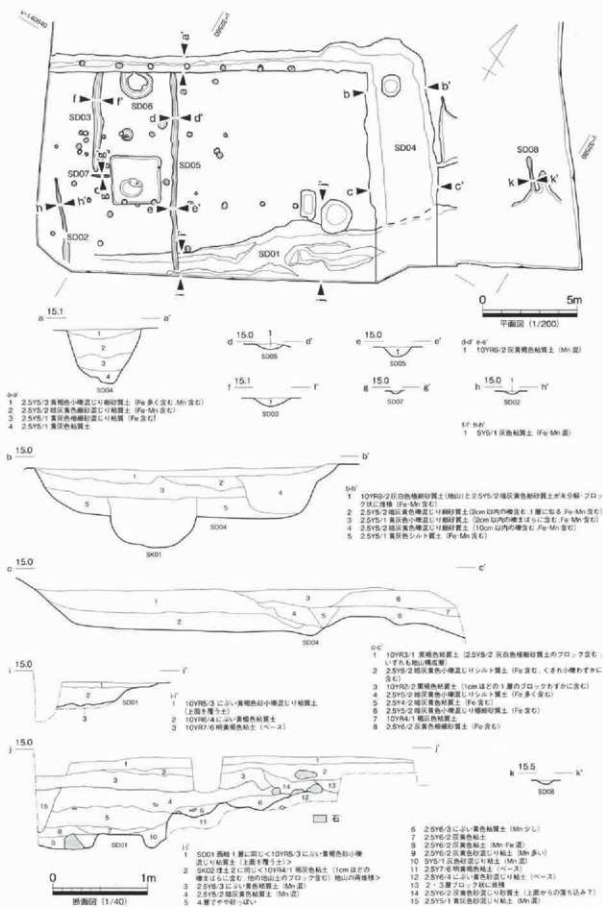
Ⅲ区SDO1は、今回の調査では溝底が検出されていない可能性もあるが、Ⅱ区SDO1の底よりも標高が80cm程度高いため、同一の溝ではない可能性が高い。Ⅱ区とⅢ区の境界付近は大きく攪乱されており、この二つの溝の関係は不明である。Ⅱ区SDO1はⅢ区との境界付近から現水路に平行するように南へ屈曲するものと見られる。埋土からは一部近世以前の遺物も含むが、近世以降の遺物が多量に出土している。293~296は須恵器である。297は緑釉陶器である。298・299は土師器である。300は黒色土器A類椀である。301は東播系須恵器である。302は龍泉窯系青磁椀I-5類である。303~305は土師器質土器である。306は瓦質土器である。307~310は陶器である。311・312は白磁である。313~315は染付である。

Ⅲ区SDO4 (B6,B7) (第54・57・58図)

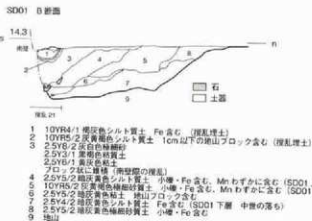
平面形がL字状を呈する溝である。Ⅲ区SDO1より新しい。南北方向の溝には、新旧二つの溝が重なっている。溝の埋土に含まれる雑群が、東西方向から南北の方向の新しい溝へ連続しているので、最終的な形態は南北方向も幅が東西方向の溝と同規模と考えられる。東西方向の部分で、幅0.7~1.5m、深さ60cm程度である。南北方向の部分は、古い方で幅3.0~3.6m、深さ約50cmである。新しい方で、幅1.1m程度、深さ50cm程度である。出土遺物は、龍泉窯系青磁椀316、陶器皿(灯明皿)317、唐津焼皿318、陶器椀319、陶器皿320、染付皿321、染付蓋322、染付椀323~327、染付瓶328、土師質蛸壺329、瓦質土器壺330、瓦質土器釜331、不明土製品332・333がある。

Ⅲ区SDO8 (B7) (第59図)

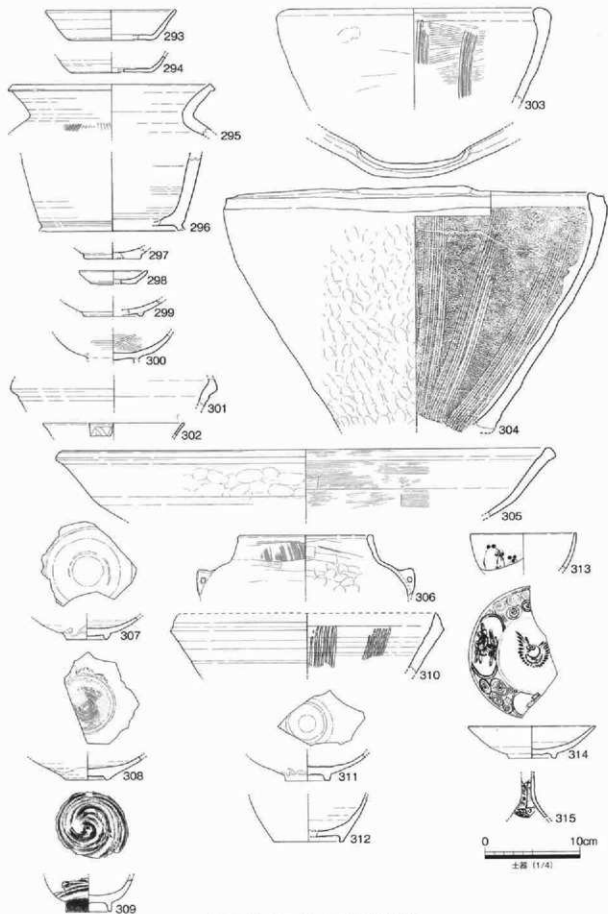
SDO1へと流入すると考えられる浅い溝である。出土遺物は、染付椀334がある。



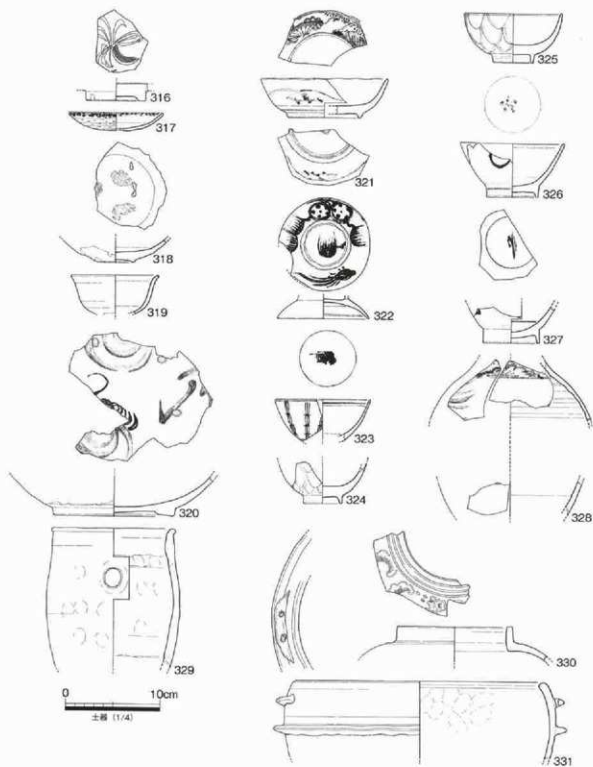
第 54 図 III 区 SD01 ~ 07 平・断面図



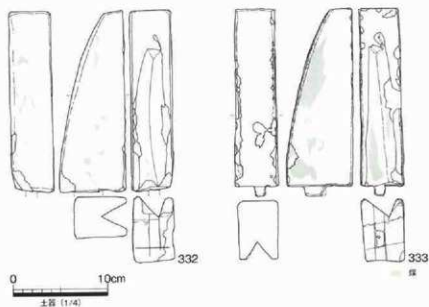
第 55 図 II・III 区 SD01 断面図



第56图 II·III区SD01出土遗物



第 57 图 Ⅲ区 SD04 出土遺物 1



第58図 Ⅲ区SD04出土遺物2



第59図 Ⅲ区SD08出土遺物

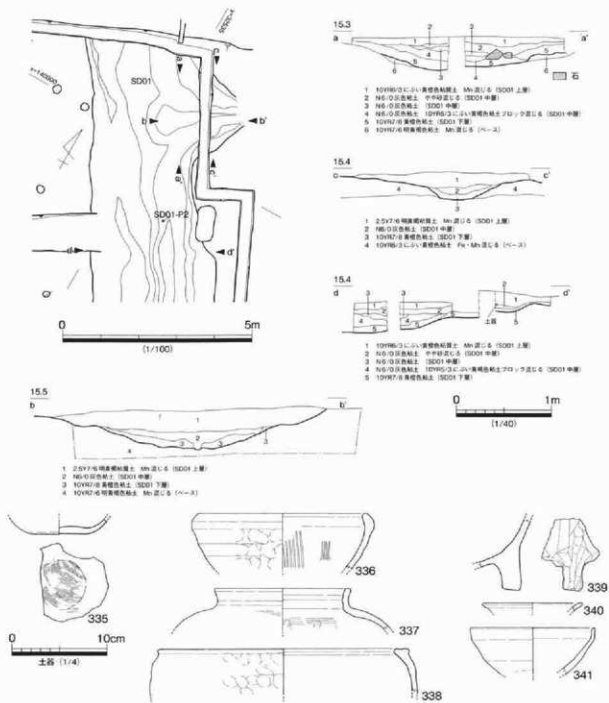
V区SD01 (D5,E5) (第60図)

幅3.3m程度の溝である。深さ30～40cmである。出土遺物は、土師質土器335～339、白磁皿340、天目椀341などがある。

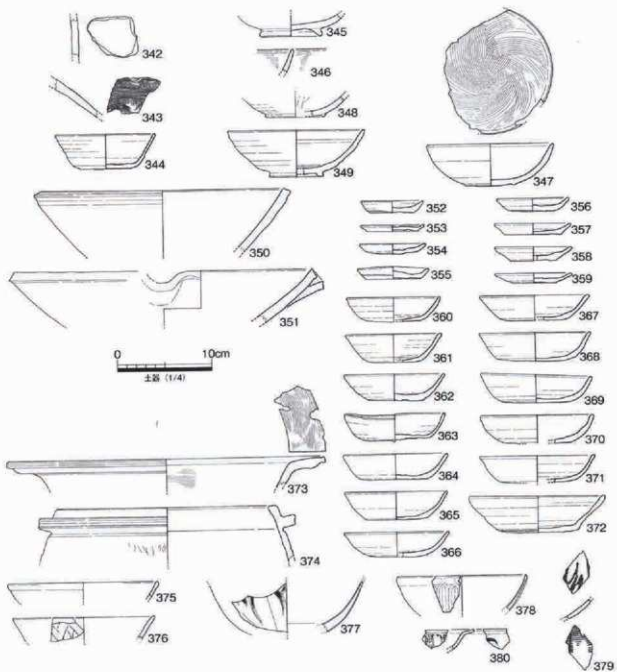
7 包含層等出土遺物 (第61・62図)

包含層からや調査区壁整形中などに出土した遺物をここで報告する。また、石器については出土した遺物の時期と明らかに所属時期が異なるものは、ここで報告する。

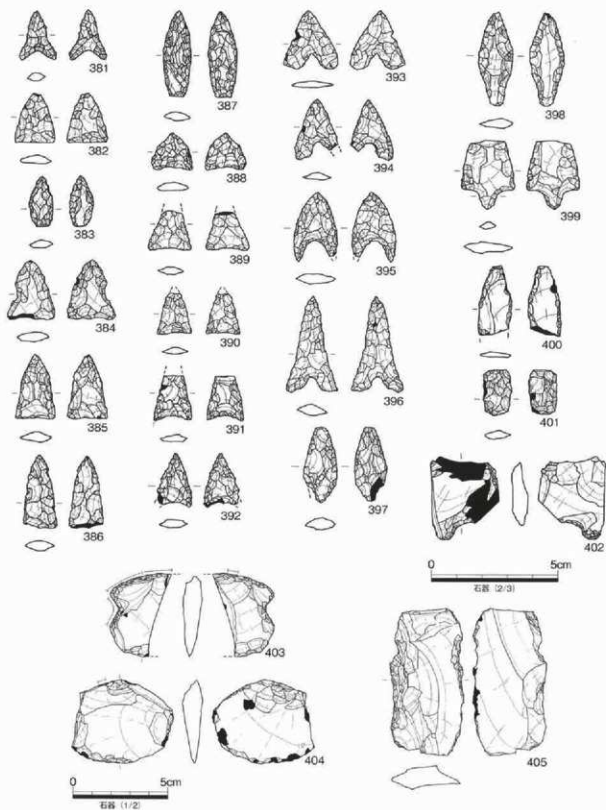
342は摩滅が著しいが、胎土から縄文土器と考えられる。343は弥生土器である。344は須恵器杯である。345は黒色土器A類椀である。346は黒色土器B類椀である。347～351は西村産須恵器である。352～374は土師器である。375は中国産白磁Ⅱ-1類である。376・377は龍泉窯系青磁椀Ⅰ-5類である。378は龍泉窯系青磁椀Ⅲ-2類である。379は同安窯系青磁椀である。380は染付皿である。381は大分県姫島産黒曜石製石鏃である。382～400はサヌカイト製石鏃である。401・402は石鏃と考えられる。403は打製石磨丁である。404・405はスクレイパーである。406～409は楔状石核である。410は石核である。



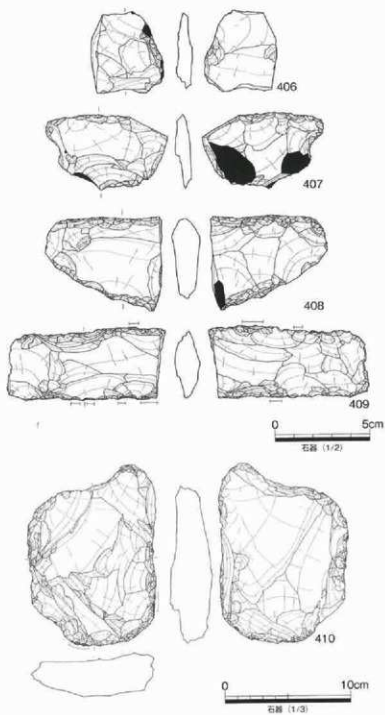
第60図 V区SD01平・断面図、出土遺物



第 61 圖 包含層等出土遺物 1



第 62 回 包含層等出土遺物 2



第 63 图 包含層等出土遺物 3

第4章 まとめ

遺構の変遷 (第63～68図)

弥生時代中期後半

土器埋納ピットと方形区画溝がある。方形区画溝は、埋土が方形周溝墓に見られるような黑色粘質土ではなく、基盤層に近いものであることから、掘削されてから短期間のうちに埋没したものと考えられる。また墓の主体部と考えられる遺構も区画内には見られず、溝の埋土に含まれる土器もわずかな量であることから、この遺構が方形周溝墓である可能性は低いと考えられる。なお、調査区南端では、弥生土器の包含層が検出されており、サヌカイトの小剥片や石核が出土していることから付近で石器製作が行われていたと考えられる。

弥生時代後期後半

調査区南端で、土坑及び溝がわずかに確認されているにすぎない。

飛鳥時代

調査区南端で土坑1基及び性格不明の集石遺構が確認されている。

平安時代

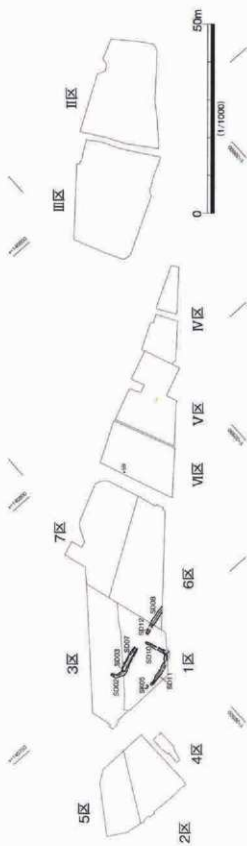
調査区中央部で10世紀後半頃の独立柱建物2棟と廃棄土坑2基が確認されている。突然、平安時代に出現し、短期間で廃絶したと考えられる庇付大型建物を含む建物群の性格は、当遺跡の状況からは何うことはできない。丸亀市郡家原遺跡では、湧水池の管理のためと考えられるような建物群が出現しているが、当遺跡では関連する遺構はない。まんのう町買田岡下遺跡でも平安時代前半の建物群がみられるが、瓦や帯金具が出土するなど当遺跡とは状況がやや異なる。また、当遺跡から南へ750mにある北岸南遺跡でも、12世紀後半に同様な建物群が出現しているが、関連する遺構はない。

中世

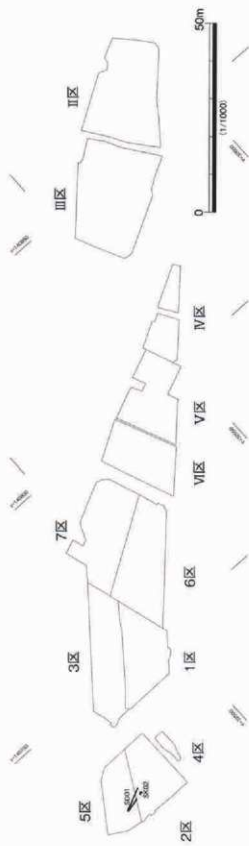
調査区南半で多数のピットを確認したが、建物として復元できたのはわずかである。そのうち6・7区SB05は、周りに溝を伴い、周囲から銅鑄造時に発生する銅滴が出土するなど、銅鑄造に関わる建物である。

近世以降

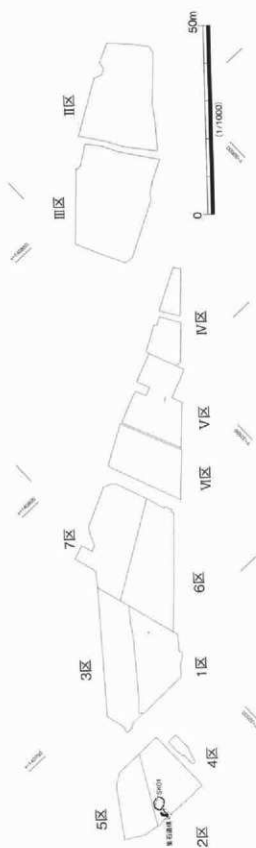
調査区北半(Ⅱ・Ⅲ区)で確認した遺構は、ほとんどが近世以降のものである。



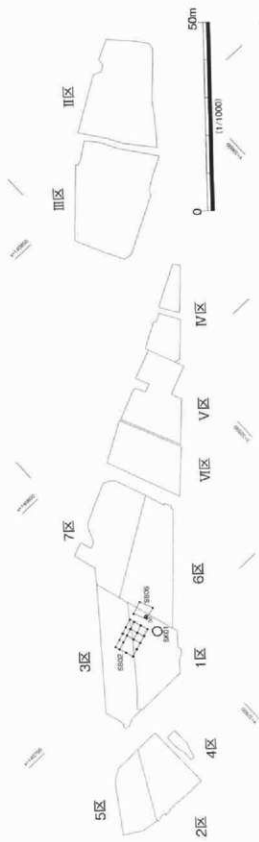
第64図 遺構変遷図 弥生時代中期後半



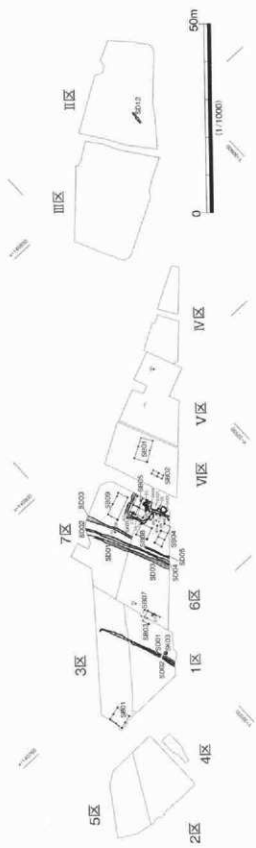
第65図 遺構変遷図 弥生時代後期後半



第 66 図 遺構変遷図 飛鳥時代



第 67 図 遺構変遷図 平安時代



第 68 圖 遠構或遷圖 中世

觀察表

第5表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(1)

器名 調査区	遺跡名	層位	種類	器体	調査		土質			法量			色調		残存率	備考
					外径	内径	石炭・赤色砂 長石	白色砂 角閃石 雲母	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外壁	内壁		
1	VI区	SD09 腰 土 14	赤生土器	高 9.1(8.5) 下 6.0(5.7)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	5.5		10YR4.2に 近い黄褐色	5YR6.6色	5YR6.6色	7.8		
2	1区	SD10-11	赤生土器	高 11.1(10.7) 径 3.2(3.1)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	(11.1)		5YR6.6色	5YR6.6色	5YR6.6色	3.8		
3	1区	SD07	赤生土器	高 11.1(10.7) 径 3.2(3.1)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	(15.0)		5YR6.6色	5YR6.6色	5YR6.6色	3.8		
4	1区	SD02	赤生土器	高 9.1(8.5) 径 3.2(3.1)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	(5.8)		10YR6.3に 近い黄褐色	10YR5.2底黄褐色	10YR5.2底黄褐色	4.8		
5	1区	SD11	赤色包含層 (10-20cm)	高 9.1(8.5) 径 3.2(3.1)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多			10YR6.4に 近い黄褐色	2.5Y7.1黄灰	1.8 水濁	1.8		
6	1区	SD10-11	赤生土器	高 11.1(10.7) 径 3.2(3.1)	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多	中・多 中・多			5YR6.6色	5YR4.2底褐色	5YR4.2底褐色	1.8		
7	1区	SD02	赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	(8.0)		7.5YR6.6色	7.5YR6.6色	7.5YR6.6色	2.8		
8	2区	SK02	赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	(11.7)	18.0	5YR7.4に 近い黄褐色	5YR7.4色	5YR7.4色	6.8		
9	2区	SK02	赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明			7.5YR7.4に 近い黄褐色	7.5YR7.4に 近い黄褐色	7.5YR7.4に 近い黄褐色	2.8		
10	5区	SD01	赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	6.2		5YR5.3に 近い黄褐色	10YR4.1黄灰	10YR4.1黄灰	2.8		
11	5区	SD01	赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	(6.4)		2.5Y8.3黄灰	2.5Y7.2底黄	2.5Y7.2底黄	1.8		
12	2区		赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	3.5	19.3	6.4	10YR6.4に 近い黄褐色	5Y4.1灰	6.6		
13	2区		赤色包含層 (0-10cm)	不明	不明	不明	不明	不明	(13.0)		10YR6.6明黄褐色	10YR6.6明黄褐色	10YR6.6明黄褐色	1.8	20と同一断体小	
14	2区		赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	(17.9)		5YR6.8色	10YR7.6明黄褐色	10YR7.6明黄褐色	1.8		
15	2区		赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明	(16.0)		2.5Y8.2底白	2.5Y8.3底黄	2.5Y8.3底黄	2.8		
16	2区		赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明			5YR6.6色	10YR6.4に 近い黄褐色	10YR6.4に 近い黄褐色	1.8	葉	
17	2区		赤生土器	不明	不明	不明	不明	不明			5YR6.8色	7.5YR5.6明褐色	7.5YR5.6明褐色	2.8		

第6表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(2)

調査区	調査名	期位	種類	調整		粘土		法量			色調		残存率	備考
				外面	内面	白色長石	赤色長石	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その径 (cm)	外部		
18	2区		弥生土器	不明	不明	中・多	中・少	(46)			25YR 3 黄赤		2.8	
19	2区	黒色磁合層 (0~10cm)	弥生土器	不明	不明	中・多		(86)			10YR 6/4 に 近い黄赤		3.8	
20	2区	埋没層 上面粘土	弥生土器	不明	不明	中・多		(157)			10YR 5.8 黄赤		1.8 器高	33と同一個体か?
21	2区	上面粘土	弥生土器	不明	不明	中・多		(70)			5YR 5.6 明赤褐		1.8 器高	
55	2区	黒色磁合層 (0~10cm) 裏石付	須恵器	下平肩部付 上平肩部付	不明	中・多	中・少				2.5Y7/1 灰白		3.8	
56	2区	黒色磁合層 (0~10cm)	須恵器	口縁部付 口縁部付	不明	中・多	中・少	10.8	3.9		N7/ 灰白		8.8	
57	2区		土師器	不明	不明	中・多	中・多				2.5YR7/6 黄		2.8	
58	2区	赤褐色シロト	土師器	不明	不明	中・多	中・少	(111)			2.5YR7/6 黄		6.8	
59	2区	黒色磁合層 (0~10cm) 裏石付	須恵器	体部付 底面付	不明	中・多	中・少				N6/ 灰		2.8	
60	2区	黒色磁合層 (0~10cm)	須恵器	体部付 底面付	不明	中・多	中・少	(138)			7.5Y7/1 灰白		1.8	
61	2区		須恵器	底面付	不明	中・多	中・少				N5/ 灰		4.8	
61	2区		須恵器	底面付	不明	中・多	中・少				N5/ 灰		4.8	
62	2区	黒色磁合層 (0~10cm)	須恵器	体部付	不明	中・多	中・少	(136)			N 6/ 灰		1.8	
63	2区	黒色磁合層 (0~10cm) 裏石付	須恵器	口縁部付 口縁部付	不明	中・多	中・多	15.0	3.3		N6/ 灰		1.8	
64	2区	P1 (トーカー スチーレン) 下部	須恵器	口縁部付 底面付	不明	中・多	中・少	(159)			2.5Y7/1 灰白		1.8 器高	
65	2区	P2 (トーカー スチーレン)	須恵器	体部付 底面付	不明	中・多	中・少				2.5Y7/1 灰白		3.8	
66	3区	SP11	土師器	不明	不明	中・多	中・多	(102)	2.2	(66)	5YR 5.4 に 近い黄		2.8	

第7表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(3)

番号 調査区	遺構名	部位	種類	器形	調整		動土		法量			色調		残存率	備考	
					外面	内面	石蒸・赤色粒角閃石・雲母長石	傾斜・赤色粒角閃石・雲母	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部			内部
67	3区	SP11	黒色土器 片断	碗	口径=4.0±0.1 底径=2.5	9.0±0.5			傾・少 (14.2)		8.0		N3. 硝灰	N3. 硝灰	1.8	
68	1区	SP16	黒色土器 八重	碗	9.0±0.5	9.0±0.5			傾・少				5YR6.6 硝灰	N3. 硝灰	1.8未 測	
69	1区	SP16	黒色土器 器口部	碗	9.0±0.5	9.0±0.5			傾・少				10YR4.1 硝灰	10YR4.1 硝灰	1.8未 測	
70	1区	SP17	黒色土器 八重	碗	9.0±0.5	9.0±0.5			傾・少 (11.8)				7.5YR7.4に 近い硝灰	7.5YR3.1 黒硝	1.8未 測	
71	1区	SP28	土師器	杯	同転付*	同転付*			傾・多 (10.3)				5YR7.6 硝灰	5YR7.6 硝灰	1.8	
72	1区	SP28	土師器	杯	同転付*	同転付*			傾・少 (12.8)				5YR6.4に 近い硝灰	5YR6.4に 近い硝灰	1.8	
73	1区	SP28	土師器	碗	不明 (5.7)	不明 (5.7)			中・多 (17.4)				2.5YR8.3 硝灰	2.5YR8.3 硝灰	1.8未 測	
74	1区	SP28	黒色土器 八重	碗	口径=4.0±0.1 底径=2.5	9.0±0.5			傾・多 (15.4)	(7.4)			2.5YR5.3に 近い硝灰	N3. 硝灰	2.8	
75	1区	SK01	土師器	杯	口径=体同転 付*底同転 付*底同転	同転付*			中・少 13.3	4.6	7.5		2.5YR8.4 硝灰	10YR8.4 硝灰	6.8	
76	1区	SK01	土師器	釜	口径3.2±0.1 体径5.5	同転付*			傾・多 (20.6)				7.5YR6.4に 近い硝灰	10YR7.3に 近い硝灰	1.8	外部十字付着
77	1区	SK01	黒色土器 八重	碗	9.0±0.5	9.0±0.5			傾・少 (13.0)				10YR5.4に 近い硝灰	10YR3.1 黒硝	1.8未 測	
78	1区	SP30	土師器	重	口径=体同転 付*底不明	同転付*			中・多 (12.8)	2.3	(8.0)		5YR7.6 硝灰	5YR6.6 硝灰	1.8	
79	1区	SP20	土師器	杯	口径=体同転 付*底同転 付*底同転	同転付*			傾・少 (12.2)	3.9	(7.0)		2.5YR8.4 硝灰	10YR8.3 硝灰	5.8	
80	1区	SP20	土師器	杯	口径=体同転 付*底同転 付*底同転	同転付*			傾・少 (12.2)	3.5	(6.6)		10YR8.3 硝灰	10YR8.3 硝灰	2.8	
81	VI区	SP13(埋土)	土師器	杯	同転付*	同転付*			傾・少 (10.0)				2.5YR8.6 硝灰	10YR8.6 硝灰	1.8未 測	
82	VI区	SP28(埋土)	土師器	杯	口径=体同 転付*底同 転付*底同 転付*底同	同転付*			傾・多				2.5Y3.1 黒硝	2.5YR8.2 灰白	1.8	外部十字付着

第8表 東茅元秋常通跡出土器類表(4)

調査地区	遺構名	層位	種類	形状		数量				胎土			法量			色調		保存率	備考		
				外縁	内面	石莖・ 瓦片	単色彩	角四石	器母	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部	内部	外部	内部			外部	内部
83	1区	SN00	土師器	作	同軸円形													5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	1/8	
84	6区	SN24	土師器 土師器	足座 足座	半平不明(作)半平 不明													5YR8.6 橙	5YR7.6 橙	1/8未 調	
85	6区	SN04	土師器	皿	口径同軸円形 体高不明													10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	3/8	
86	6区	SN04	土師器 土師器	瓶 瓶	同軸円形 同軸円形													5YR8.4 浅黄橙	5YR8.6 浅黄橙	4/8	
87	6区	SN07	土師器	皿	口径同軸円形 体高不明													10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	1/8未 調	
88	6区	SN07	土師器	杯	口径同軸円形 体高不明													5YR8.6 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	1/8未 調	
89	6区	SN07	土師器 土師器	足座 杯	口径同軸円形 口径同軸円形													10YR8.2 灰黄橙	10YR8.2 灰黄橙	1/8未 調	9/8調子付着
90	6区	SN11	土師器	皿	口径同軸円形 体高不明													5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	1/8未 調	
91	7区	SN41	土師器	杯	口径同軸円形 体高不明													5YR7.6 橙	10YR8.4 浅黄橙	1/8	
92	7区	SN47	土師器	皿	口径同軸円形 口径同軸円形													10YR7.4 に 赤い黄橙	10YR7.4 に 赤い黄橙	1/8	
93	7区	SN47	土師器	杯	口径同軸円形 口径同軸円形													10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	2/8	
94	7区	SN82	土師器	杯	同軸円形													5YR8.2 灰白	5YR8.2 灰白	1/8	
95	7区	SN64-65	土師器	杯	口径同軸円形 口径同軸円形													10YR8.1 灰白	10YR8.4 浅黄橙	2/8	
96	6区	SN02	土師器	皿	口径不明(作)口径同軸円形													10YR8.4 浅黄橙	10YR8.4 浅黄橙	1/8	
97	6区	SN02	土師器 土師器	瓶 瓶	同軸円形 同軸円形													2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.1 灰白	2/8	
98	6区	SN06	土師器	皿	口径同軸円形 口径同軸円形													5YR8.4 浅黄橙	5YR8.4 浅黄橙	3/8	

第9表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(5)

遺跡名	遺跡区	層位	種類	器種	調整		新土			法量			色調		残存率	備考
					外面	内面	石製・ 灰石	赤色粘角質石 雲母	砂粒 (cm)	口径 (cm)	器底 (cm)	底径 その他 (cm)	外部	内部		
99	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	不明(???)			細・少	(68)	09	(62)	75YR8-4 灰黄褐色	5YR8-4 灰黄褐色	1/8	
100	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	不明(???)			細・少	(70)	09	(54)	75YR8-3 灰黄褐色	5YR8-3 灰黄褐色	2/8	
101	6区	SD06	TS取り上げ P2	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(71)	11	(62)	25YR8-3 黄褐色	25YR8-3 黄褐色	1/8	
102	6区	SD06	TS取り上げ P17	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(71)	12	(63)	10YR8-2 灰白	10YR8-2 灰白	2/8	
103	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(72)	10	(61)	25YR8-2 灰白	75YR67 黄褐色	3/8	
104	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(74)	10	(62)	10YR8-3 灰黄褐色	10YR8-3 灰黄褐色	1/8	
105	6区	SD06	TS取り上げ P12	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(76)	11	(57)	25YR8-1 黄褐色	25Y6-1 黄褐色	2/8	
106	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(78)	12	(60)	25YR8-4 灰黄褐色	5YR8-4 灰黄褐色	1/8	
107	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(80)	11	(69)	10YR8-2 灰白	10YR8-3 灰黄褐色	2/8	
108	6区	SD06	TS取り上げ P10	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(82)	13	(56)	25YR8-3 黄褐色	25YR8-3 黄褐色	1/8	
109	6区	SD06	TS取り上げ P9	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少			(67)	10YR7/4に 近い黄褐色	10YR7/4に 近い黄褐色	1/8	
110	6区	SD06	TS取り上げ P16	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(99)	(71)		10YR8-2 灰白	10YR8-2 灰白	3/8	
111	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(101)	27	(60)	25YR8-2 灰白	25YR8-2 灰白	1/8	
112	6区	SD06	TS取り上げ P4	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			細・少	(104)	(80)		75YR8-3 灰黄褐色	5YR8-3 灰黄褐色	1/8	
113	6区	SD06	土師器	土師器	口縁面転写+ 底面転写	口縁面転写+ 底面転写			中・多	(105)	(66)		10YR8-4 灰黄褐色	10YR8-4 灰黄褐色	2/8	

第10表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(6)

調査区 番号	遺物名	部位	材質	調整		粘土			度量			色相		備考			
				外周	内面	行先・赤色部 長径	赤色部 角径	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	その他 (cm)	外部		内部		
114	6区	SD06	TS取9上付	土師器	杯	調整なし	調整なし			細・少	10.6			7.5YR7.6 粗	7.5YR8.3 灰青色	2.8	
115	6区	SD06		土師器	杯	土師・体短口縁・体同軸 不明(台座物)	不明(台座物)			細・少	10.8	6.5		10YR8.4 灰青色	10YR8.4 灰青色	3.8	
116	6区	SD06		土師器	杯	土師・体同軸 不明(台座物)	不明(台座物)			細・多	11.0	6.5		7.5YR8.4 灰青色	7.5YR8.4 灰青色	1.8	
117	6区	SD06		土師器	杯	土師・体短口縁・体同軸 不明(台座物)	不明(台座物)			細・少	11.0	2.5	8.4		10YR8.4 灰青色	10YR8.4 灰青色	2.8
118	6区	SD06		土師器	杯	調整なし	調整なし			細・少	11.0	17.4		10YR8.3 灰青色	10YR8.3 灰青色	1.8	
119	6区	SD06		土師器	杯	土師不明(台座物)	不明(台座物)			細・少		6.0		10YR8.3 灰青色	10YR8.3 灰青色	1.8	
120	6区	SD06		土師器	杯	不明(台座物)	不明(台座物)			細・少		7.2		10YR8.3 灰青色	10YR8.3 灰青色	1.8	
121	6区	SD06	TS取9上付	土師器	杯	調整なし	不明(台座物)			細・少		6.8		10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰青色	3.8	
122	6区	SD06		土師器	杯	調整なし	不明(台座物)			細・少		7.8		10YR8.3 灰青色	10YR8.3 灰青色	2.8	
123	6区	SD06		土師器	杯	調整なし	不明(台座物)			細・少		11.2		2.5YR8.3 灰黄	2.5YR8.2 灰白	3.8	
124	6区	SD06	TS取9上付	土師器	杯	調整なし	不明(台座物)			細・少	13.0	6.2		5YR7.1 灰白	5YR7.4 灰白	2.8	
125	6区	SD06	TS取9上付	青白磁	壺	調整なし	不明(台座物)			無				5G7.1 明緑灰	5G7.1 明緑灰	1.8 元 底	
126	7区	SD04	黒色点状 周径(10~20mm)	土師器	圓	調整なし	調整なし			細・少	6.5	1.1	6.5		7.5YR8.3 灰青色	7.5YR8.3 灰青色	3.8
127	7区	SD04	黄灰色少孔	土師器	圓	調整なし	調整なし			細・少	6.6	0.8	6.5		10YR7.4に 近い黄緑	10YR7.4に 近い黄緑	6.8
128	7区	SD04	上面稍歪	土師器	圓	調整なし	調整なし			細・少	6.6	1.1	6.5		10YR7.3に 近い黄緑	10YR7.3に 近い黄緑	3.8
129	7区	SD04	黄灰色少孔	土師器	圓	調整なし	調整なし			細・少	6.6	0.8	6.8		2.5YR8.3 灰黄	2.5YR8.3 灰黄	2.8

第 11 表 東坂元秋常遺跡出土土器調査表 (7)

標文番号	調査区	遺蹟名	層位	種類	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考
					外面	内面	石炭・赤色片角質石・灰石	赤褐色片角質石	赤鉄	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
130	6区	SD07		皿	口縁回転軸++ 底面回転++ 未調整	口縁回転++ 底面回転++ 電汗				細・少	6.9	0.7	5.1	10YR8-4 灰黄胎	10YR8-4 灰黄胎	8.8	
131	7区	SD04	下層	皿	口縁回転++ 底面回転++	回転++				細・少	7.1		6.5	7.5YR8-4 灰黄胎	7.5YR8-4 灰黄胎	1.8	
132	6区	SD07		皿	口縁回転++ 底面回転++	口縁回転++ 底面回転++ 不明				細・少	7.0	1.1	6.3	10YR8-4 灰黄胎	10YR8-4 灰黄胎	1.8	
133	7区	SD04	下層	皿	不明(付着物)	不明(付着物)				細・少	7.8	1.3	6.5	7.5YR8-4 灰黄胎	7.5YR8-4 灰黄胎	1.8	
134	7区	SD04	包含層(黄灰色)ノド付処 SD04北付処	杯	口縁~体回転 底面回転	口縁~体回転 底面回転				細・少	10.7	3.0	5.0	2.5Y7/3 黄	2.5Y7/3 黄	2.8	
135	7区	SD04	黄灰より西 黄灰色シユト	杯	回転++	不明(付着物)				細・少	10.8			10YR8-4 灰黄胎	10YR8-3 灰黄胎	1.8 1.8未測	
136	6区	SD07		杯	口縁回転++ 底面回転++	回転++				細・少	11.4	2.2	8.0	10YR7-6 明黄胎	10YR8-4 灰黄胎	1.8	
137	7区	SD04	包含層 (黄灰色)ノド付処 黄灰色シユト	杯	口縁~体回転 底面回転	口縁~体回転 底面回転				細・少	11.9	3.0	6.1	10YR8-3 灰黄胎	2.5YR7/4 L 2.5Y7/4 L	1.8	
138	7区	SD04	包含層 (黄灰色)ノド付処 黄灰色シユト	鉢	回転++	口縁回転++ 底面回転++ 体汗				中・少	13.4			9Y8/1 灰白	NS/ 灰	1.8 1.8未測	
139	7区	SD04	包含層 (黄灰色)ノド付処 黄灰色シユト	鉢	体++ 不明(???)	不明(???)				中・少			11.8	2.5Y8/1 灰白	9Y7/1 灰白	1.8	内面使用痕
140	7区	SD04	黄灰色シユト	碗	端縁	端縁				無				2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1.8 1.8未測	
145	6区	SD01		皿	口縁回転++ 底面回転++	回転++				細・少	6.3	1.3	4.3	7.5YR8-6 灰黄胎	7.5YR8-6 灰黄胎	2.8	
146	6区	SD03		皿	口縁回転++ 底面回転++	不明(付着物)				細・少	6.9	1.4	4.5	7.5YR8-3 灰黄胎	7.5YR8-3 灰黄胎	2.8	
147	6区	SD03		皿	口縁回転++ 底面回転++ 電汗	口縁回転++ 底面回転++ 電汗				細・少	6.9	1.2	5.3	2.5YR7/6 黄	2.5YR7/6 黄	2.8	
148	6区	SD03		皿	口縁回転++ 底面回転++ 未調整	不明(付着物)				細・少	7.1	1.3	5.5	7.5YR8-4 灰黄胎	7.5YR8-4 灰黄胎	2.8	
149	5区	SD01		土師器	口縁回転++ 底面回転++	回転++				細・少	7.4	1.1	6.0	7.5YR8-6 灰黄胎	7.5YR8-6 灰黄胎	1.8	

第12表 東墓元秋常遺跡出土器類表(8)

器文 番号	調査区	遺構名	部位	種類	形状		周数		胎土		法量		色調		残存率	備考		
					外周	内周	石溝・ 赤色影 灰白	石溝・ 赤色影 角四石	器径	器高 (口)	口径 (口)	器高 (口)	底径 (口)	底径 (口)			その他 (口)	外部
150	6区	SX01	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	不明(???)					幅・少	7.8	6.0	10YR7/4に 近い黄緑	10YR7/4に 近い黄緑	2.8		
151	6区	SX01	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	周転子+					幅・少	7.9	1.1	6.5	2.5YR7/4に 近い黄	2.5YR7/4に 近い黄	1.8	
152	6区	SX01	杯	土師器	周転子+	不明(付着物 不明(???)				~	幅・少	10.6			10YR7.6黄緑部 2.5YR8.6浅黄部	2.8		
153	6区	SX01	杯	土師器	口縁-右周転 子+底周転 子+底不明	周転子+					幅・多	10.9			10YR8.1灰白	10YR8.3浅黄部	1.8未 測	
154	6区	SX01	杯	土師器	口縁-右周転 子+底周転 子+	周転子+					幅・少	10.9	7.6		10YR8.3浅黄部	10YR8.3浅黄部	1.8	
155	6区	SX01	杯	土師器	周転子+	周転子+					幅・少	11.7			2.5YR7/4に 近い黄	2.5YR7/4に 近い黄	1.8未 測	
156	6区	SX01	碗	土師器	不明(???)	不明(???)					幅・少		6.1		2.5YR8.3浅黄部	2.5YR8.4浅黄部	1.8	
157	6区	SX01	碗	土師器	口縁+	???					中・少				10YR7.2に 近い黄緑	10YR8.4浅黄部	1.8未 測	
158	6区	SX01	碗	和歌器	周転子+	+					幅・少		6.7		5Y8.2灰白	5Y8.2灰白	2.8	
159	6区	SX01	碗	西村産 和歌器	口縁+	+					幅・少				5Y8.1灰白	5Y7/1灰白	1.8未 測	
160	6区	SX01	碗	西村産 和歌器	周転子+	周転子+ 底周転子+ 底不明					幅・少	14.0			N8/灰白	N8/灰白	1.8未 測	
161	6区	SX01	碗	西村産 和歌器	口縁-上土 周転子+ 底周転子+ 底不明	口縁周転子+ 底周転子+					幅・多	14.7			2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	1.8未 測	
162	6区	SP20	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	不明(付着物 焼物)					幅・少	6.1	1.2	6.0	2.5YR8.4浅黄部	2.5YR8.4浅黄部	1.8	
163	6区	SP20	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	不明(付 着物)					幅・少	6.9	1.3	5.0	2.5YR8.6浅黄部	2.5YR8.6浅黄部	1.8未 測	
164	6区	SP20	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	不明(付着物 焼物)					幅・少	7.0	1.0	5.8	2.5Y8.3黄	2.5Y8.3黄	3.8	
165	6区	SP20	皿	土師器	口縁周転子+ 底周転子+	不明(付 着物)					幅・少	7.5	1.0	7.2	10YR6.3浅黄部	10YR8.3浅黄部	1.8	

第13表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表(9)

遺跡名	道標名	方位	種類	器種	調整		胎土		法量			色質		残存率	備考
					外面	内面	石光・赤色砂角閃石・雲母・砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その量 (cm)	外部	内部		
106 6区	SP20	土師器	杯	口縁・体部に 土質不明(付着物 有り)			細・少	(9.9)	2.9	(5.2)	7.5YR8.4或黄褐色	10YR8.3或黄褐色	3.8		
107 6区	SP20	土師器	杯	口縁・体部に 土質不明(付着物 有り)			中・多	(11.0)		(8.0)	2.5YR8.3或黄褐色	2.5YR8.3或黄褐色	1.8未満		
108 6区	SP20	褐色土器 八重	碗	口縁	口縁に 赤土質		細・少	(14.8)			2.5YR8.2或白	NZ/黒	1.8未満		
109 6区	SP20	西村産 磁器	碗	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		中・少	(14.6)			2.5YR8.1或白	2.5YR8.1或白	1.8未満		
170 6区	SP20	須恵器	鉢	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少				2.5YR8.1或白	2.5YR8.1或白	1.8未満		
171 6区	SP27	青磁	碗	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		無	(16.2)			5YR8.2或黄褐色	2.5YR8.2或黄褐色	1.8未満	埋藏品系1-3	
172 6区	SP33	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(6.5)	4.0	(5.3)	10YR8.3或黄褐色	10YR8.3或黄褐色	1.8		
173 7区	SP26	土師器	杯	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		中・少	(8.8)			10YR8.4或黄褐色	5YR8.7或黄褐色	1.8		
174 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	7.0	1.3	5.2	7.5YR7.6或黄褐色	7.5YR7.6或黄褐色	8.8		
175 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(7.0)	1.0	(6.7)	7.5YR8.6或黄褐色	7.5YR8.6或黄褐色	2.8		
176 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(7.1)	1.1	(5.5)	7.5YR8.4或黄褐色	7.5YR8.4或黄褐色	3.8		
177 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(7.2)	1.2	(6.7)	7.5YR7.4に 赤土質	7.5YR7.4に 赤土質	2.8		
178 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(7.2)	1.4	(6.7)	7.5YR7.4に 赤土質	7.5YR7.4に 赤土質	2.8		
179 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	7.2	1.2	5.6	7.5YR8.6或黄褐色	10YR8.3或黄褐色	8.8		
180 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	(7.2)	1.1	(4.9)	7.5YR7.6或黄褐色	7.5YR7.6或黄褐色	2.8		
181 6区	SK01	土師器	皿	口縁に赤土質 付着	口縁に赤土質 付着		細・少	7.3	1.1	5.8	7.5YR7.6或黄褐色	7.5YR7.6或黄褐色	7.8		

第 14 表 東坊元秋常遺跡出土土器類群表 (10)

遺跡名	遺址區	遺構名	層位	種類	用途		胎土			法量			色調		残存率	備考
					外面	内面	石灰、 長石	小地区 角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外部		
182	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (7.3)	1.4	0.0	5YR5/4 灰緑	5YR5/4 灰緑	2.8	
183	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (7.4)	1.7	0.8	5YR7/6 緑	10YR7/4 に 赤み混入	4.8	
184	6区	SK01	TS取手土坪 P1	土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (7.6)	1.3	0.0	5YR5.5/4 灰黄緑	5YR5.4/4 灰黄緑	3.8	
185	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				中・少 (7.8)	1.1	0.6	5YR6/2 灰褐	5YR5/2 灰褐	2.8	
186	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (8.0)	1.5	0.4	5YR5/4 灰緑	5YR5.4/4 灰黄緑	3.8	
187	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (8.1)	0.9	0.4	10YR5.3/4 黄緑	10YR5.3/4 黄緑	2.8	
188	6区	SK01		土師器 皿	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (8.6)	1.3	0.0	10YR5.4/4 灰黄緑	10YR5.4/4 灰黄緑	2.8	
189	6区	SK01	7c	土師器 杯	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (11.7)	3.2	0.6	10YR5.2/灰白	10YR5.2/灰白	8.8	
190	6区	SK01		土師器 杯	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (11.4)	3.0	0.0	5YR5.3/4 灰黄緑	5YR5.2/灰白	3.8	
191	6区	SK01		土師器 杯	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (12.1)		0.7	10YR5.3/4 灰黄緑	10YR5.3/4 灰黄緑	1.8	
192	6区	SK01		土師器 杯	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少 (13.4)			10YR5.3/4 灰黄緑	10YR5.3/4 灰黄緑	1.8	
193	6区	SK01		土師器 素	上半部2/3に 下半部1/3に 灰泥を施す	上半部2/3に 下半部1/3に 灰泥を施す				中・少			5YR7/4 に 赤み混入	10YR8/1 灰白	1.8 未満	
194	6区	SK01	7c	土師器 杯	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				中・少 (14.7)	3.8	0.8	5YR1/灰白	5YR1/灰白	2.8	底平付者
195	6区	SK01		土師器 甕	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅・少			N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	1.8 未満	
196	6区	SK01		土師器 甕	口縁周部に 灰泥を施す 水調製	口縁周部に 灰泥を施す				幅	0.5 未満		5YR7/4 に 赤み混入	5YR7/4 に 赤み混入	1.8 未満	底平付者

第 15 表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表 (11)

調査区 番号	調査区	遺物名	単位	種類	調整		胎土			度量			色調		残存率	備考		
					外面	内面	石灰・ 長石	赤色黄褐色 赤母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	片の幅 (cm)	外部			内部	
197	6区	SK01		香筒	外面 焼南	内面 焼南			無	(16.0)				50V7白明 平子	N8/灰白		1.8	遺品番号1-5
198	6区	SK01		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	(11.0)	3.0	(8.6)		10YR7.4に 近い黄褐色	10YR6.4に 近い黄褐色		2.8	
199	7区	SK01		土師器 杯	体同軸 調整	体同軸 調整			細・少			(8.6)		5YR7.1灰白	5Y7.1灰白		4.8	
200	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	(10.4)	2.9	(5.9)		10YR7.4に 近い黄褐色	10YR7.4に 近い黄褐色		3.8	
201	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	(10.6)	2.6	(6.0)		5YR7.6黄	5YR7.6黄		2.8	
202	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	(10.6)	2.6	(7.7)		10YR8.2灰黄褐色	10YR8.2灰黄褐色		4.8	
203	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			中・少	(10.7)	3.7	6.7		5YR7.4に 近い黄褐色	2.5YR7.4に 近い黄褐色		2.8	
204	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	11.0	2.8	6.1		10YR8.2灰黄褐色	2.5Y7.2灰黄		5.8	
205	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			中・少	(11.0)	2.8	(6.6)		5YR7.6黄	5YR7.6黄		2.8	
206	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	(11.1)	2.6	(7.0)		2.5Y7.2灰黄	10YR8.3に 近い黄褐色		3.8	
207	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	11.4	3.1	7.6		7.5YR8.4灰黄褐色	5YR8.4灰黄褐色		8.8	
208	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	11.8	3.1	7.9		5YR7.6黄	7.5YR7.6黄		7.8	
209	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・少	12.3	3.2	8.0		10YR7.3に 近い黄褐色	10YR7.3に 近い黄褐色		7.8	
210	6区	SI97		土師器 杯	口縁~体同軸 底不明	口縁~体同軸 底不明			細・多	12.3	3.3	8.3		5YR7.6黄	2.5YR6.3に 近い黄褐色		6.8	
211	7区	SI27		土師器 皿	口縁同軸 底不明	口縁同軸 底不明			細・少	6.2	0.9	4.9		10YR8.4灰黄褐色	10YR8.3灰黄褐色		8.8	

第 16 表 東坂元秋常遺跡出土土器總表 (12)

調査地区	遺跡名	方位	種類	器種	調整		胎土			法量			色調		残存率	備考
					外形	内面	重量 (g)	形状 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	水口径 (cm)	外表	内面		
212	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	66	11	54			75YR8/4 或黄褐色 5YR8/3 或黄褐色	5/8	
213	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	66	09	51			75YR8/4 或黄褐色 5YR8/4 或黄褐色	2/8	
214	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	68	11	48			75YR7/6 橙 5YR7/6 橙	7/8	
215	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	68	14	49			75YR7/4 土 5Y7/4 土	7/8	
216	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	70	11	53			10YR8/3 或黄褐色 10YR8/3 或黄褐色	2/8	
217	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	104	26	63			75YR8/4 或黄褐色 5YR8/3 或黄褐色	3/8	
218	7区	SP27	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	114	27	78			10YR8/3 或黄褐色 10YR8/3 或黄褐色	1/8	
219	6区	SP33	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	66	11	49			75YR8/4 或黄褐色 5YR8/4 或黄褐色	3/8	
220	6区	SP19	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	69	11	56			25YR 2 灰白 25YR 2 灰白	1/8 未 調	
221	6区	SP33	土師器	土師器	不明 (付着物・ 不明)	不明 (付着物・ 不明)		細・少	70	12	53			10YR7/2 土 5Y 黄褐色	1/8	
222	6区	SP33	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		無	70	10	53			75YR8/6 或黄褐色 5YR8/6 或黄褐色	1/8 未 調	
223	6区	SP19	土師器	土師器	不明 (付着物・ 不明)	不明 (付着物・ 不明)		細・少	71	10	60			75YR8/4 或黄褐色 5YR8/4 或黄褐色	1/8 未 調	
224	6区	SP35	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		中・少	72	12	56			75YR7/6 橙 5YR7/6 橙	1/8	
225	6区	SP48	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・少	75	11	60			75YR8/6 或黄褐色 5YR8/6 或黄褐色	1/8 未 調	
226	V区	SP30 薄土	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		中・少	76	11	50			5YR7/6 橙 25YR8/6 或黄褐色	1/8	
227	V区	SP36 薄土	土師器	土師器	口縁部軋子・ 底面軋子	口縁部軋子・ 底面軋子		細・多	78	12	60			5YR7/6 橙 5YR7/6 橙	3/8	

第 17 表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表 (13)

出土 番号	調査区	遺構名	層位	種類	調整		粘土		法量			色調		残存率	備考
					外面	内面	行裏・ 底石	白色粒(陶質石) 黄粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部		
228	7区	SP43	Ⅲ	土師器	不明(???)	不明(???)			細・多 (80)	3.2	(74)		25YR5-3灰黄	1.8	
229	6区	SP01埋土	Ⅲ	土師器	上縁-灰黄粒 底-灰黄粒(???)	同様???			中・多 (80)	3.2	(60)		25YR7-4 L 2.5YR5-4灰黄 4.5Y黄	1.8	
230	7区	SP56	Ⅲ	土師器	上縁-灰黄粒 底-不明(付有青物) (黄)				細・少 (86)		(61)		2.5YR5-6灰黄 2.5YR5-6灰黄 2.5YR5-6灰黄	1.8	
231	6区	SP01埋土	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (91)				2.5YR5-6灰黄 2.5YR5-6灰黄	1.8	
232	6区	SP12埋土	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (110)				2.5YR5-4灰黄 2.5YR5-3灰黄	1.8未満	
233	6区	SP21埋土	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (114)				10YR4-2灰黄 10YR4-2灰黄	1.8未満	
234	6区	SP03	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			中・少 (116)				5YR7-6黄	1.8	
235	6区	SP13	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (115)				2.5YR5-6灰黄 2.5YR5-6灰黄	1.8	
236	6区	SP15埋土	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (118)				5YR7-6黄	1.8	
237	6区	SP15埋土	Ⅲ	土師器	上縁-灰黄粒 下縁-灰黄粒 底-同様???	同様???			細・多 (118)	3.4	(84)		2.5YR5-4灰黄 2.5YR5-3灰黄	2.8	
238	6区	SP16	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (120)				2.5YR5-4灰黄 2.5YR5-4灰黄	1.8	
239	6区	SP19	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少 (120)				10YR5-6灰黄 10YR5-3灰黄	1.8未満	
240	6区	SP15埋土	Ⅲ	土師器	上縁-灰黄粒 下縁-灰黄粒 底-同様???	同様???			細・少 (128)		(65)		10YR5-4灰黄 10YR5-4灰黄	1.8	
241	6区	SP07埋土	Ⅲ	土師器	上縁-灰黄粒 下縁-灰黄粒 底-同様???	同様???			細・少 (132)	3.4	(70)		2.5YR5-4 L 4.5Y黄	3.8	
242	6区	SP08	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少		(70)		2.5YR7-6黄	2.8	
243	6区	SP09	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			細・少		5.7		2.5YR5-2灰白 10YR7-6黄	7.8	
244	6区	SP03埋土	Ⅲ	土師器	同様???	同様???			中・少		(46)		10YR5-1灰白	2.8	

第 18 表 東原元秋常遺跡出土器類表 (14)

調査地区	遺跡名	層位	調整		粘土			法量			色調			保存率	備考
			種類	形状	外底	内面	石表・灰白	赤色肌(赤四石)	雲母	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口径 (cm)		
245	7区	SI70	土師器	罎	体・高台部不明(???) 子・蓋付						(58)	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	3.8	
246	6区	SI48	須恵器	杯	同形付							5 Y 8.1 灰白	5 Y 8.1 灰白	1.8	1.8 未満 4.0 以上 5.0 以下
247	VI区	SI03.1出土	高台登壇土師器	罎	付							7.5Y8.1 灰白	7.5Y8.1 灰白	1.8	口縁部欠
248	6区	SI36	須恵器	罎	同形付							2.5Y8.1 灰白	2.5Y8.1 灰白	1.8	
249	VI区	SI22.1出土	瓦器	瓦器	付							5Y8.1 灰白	NS / 灰	1.8 未満	
250	7区	SI70	瓦器	瓦器	付							7.5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	1.8 未満	
253	II区	SI12	須恵器	高杯	同形付							NS / 灰	NS / 灰	4.8	
254	II区	SI12.1	須恵器	壺	同形付							5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	6.8	
255	I区	SI02	青磁	罎	無縁							10Y6.2 灰・方灰	10Y6.2 灰・方灰	1.8 未満	
256	6区	SI03	土師器	皿	口縁部不明(付蓋付) 底不明							7.5Y8.4 灰黄粉	5Y8.4 灰黄粉	1.8 未満	
257	6区	SI03	土師器	皿	口縁部不明(付蓋付) 底不明							7.5Y8.6 黄	7.5Y8.6 黄	2.8	
258	6区	SI03	瓦器	皿	不明(付蓋物)							2.5Y7.2 灰黄	2.5Y7.2 灰黄	1.8	
259	6区	SI03	土師器	杯	口縁部不明(???) 底不明							10Y8.4 灰黄粉	10Y8.4 灰黄粉	2.8	
260	6区	SI03	土師器	杯	口縁部不明(付蓋付) 底不明							7.5Y8.4 灰黄粉	7.5Y8.4 灰黄粉	1.8	
261	6区	SI03	土師器	杯	口縁部不明(付蓋付) 底不明							10Y8.4 灰黄粉	10Y8.4 灰黄粉	2.8	
262	6区	SI03	土師器	瓦器	付							7.5Y7.4 に 5.5Y7.4 に	7.5Y7.4 に 5.5Y7.4 に	1.8 未満	
263	6区	SI03	土師器	不明	付							10Y8.4 に 5.5Y8.4 に	10Y8.4 に 5.5Y8.4 に	8.8	
264	7区	SI01	瓦器	罎	不明(???)							10Y8.7 2 に 5.5Y8.7 2 に	10Y8.7 2 に 5.5Y8.7 2 に	2.8	

第19表 東坂元秋常遺跡出土土器觀察表(15)

根支 番号	遺構名	層位	種類	調整		胎土				色調		残存率	備考	
				外面	内面	石灰・ 赤色砂 角閃石 重鈣	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外面
265	7区	SI01	青磁	陶	施釉	施釉							1.8米 調査部系1-2	
266	6区	SD05	土師器	碗	不明(???)	不明(???)							2.5X5.2底径4.7 2.5X7.1底白	2.8
267	6区	SD05	須臾器	碗	不明(???)	不明(???)					6.50		10YR8/4 底黄緑 2.5X8.2底白	1.8
268	6区	SI06	須臾器	壺	施釉**	施釉**							2.5X3.1底灰 2.5X8.1底白	1.8
270	7区	SI02	中央遺構特注	土師器	不明(???)	不明(???)							2.5X6.1黄底 5Y7.1底白	1.8
271	7区	SI02	須臾器 須臾器	碗	施釉**	口縁同軸** 体付							7.5YR7/6 體 5.5YR7/6 體	2.8
272	7区	SI02	白磁	碗	施釉	施釉							NS/底 10Y8.1底白	1.8
273	7区	SI03	土師器	皿	口縁同軸** 底不明	口縁同軸** 底不明							5Y8.1底白 2.5Y7.1底白	1.8 1.8 1.8 1.8
274	7区	SI03	土師器	皿	不明(???)	不明(???)							7.5YR8.4 底黄緑 2.5YR8.4 底黄緑	1.8
275	7区	SI06	土師器	杯	不明(???)	施釉**							10YR8.3 底黄緑 10YR8.3 底黄緑	1.8
276	7区	SI03	土師器	碗	施釉**	施釉**							2.5YR4.1 赤灰 2.5YR6.1 赤灰	1.8 1.8 1.8 1.8
277	7区	SI03	須臾器 須臾器	皿	不明(???)	不明(???)							2.5Y8.2底白 2.5Y8.2底白	2.8
278	7区	SI03	須臾器 須臾器	碗	口縁同軸** 底付	口縁同軸** 底付							7.5Y7.1底白 7.5Y7.1底白	1.8 1.8 1.8 1.8
279	7区	SI03	白磁	皿	施釉	施釉							2.5Y7.1底白 2.5Y8.1底白	2.8
280	7区	SI03	青磁	碗	施釉	施釉							10Y8.1底白 2.5Y8.2底白	1.8 1.8 1.8 1.8
282	Ⅱ区	SI01出土 上(1,2層)	須臾付	碗	施釉	施釉							2.5Y7.1明 赤ノ底	1.8米 調査部系1-5
282	Ⅱ区	SI01出土	須臾付	碗	施釉	施釉							5GY8.1底白 5GY8.1底白	7.8
283	Ⅲ区	SI01出土	須臾付	碗	施釉	施釉							5GY8.1底白 5GY8.1底白	7.8
283	Ⅲ区	SI01出土	須臾付	碗	施釉	施釉					4.2		NS/底白 NS/底白	3.8

第20表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(16)

器名 器区	遺跡名	部位	種類	器形	造型		胎土			測量			色澤		成存率	備考	
					外面	内面	石表・赤色粘 土質	角四角 器身	特殊	口徑 (cm)	底径 (cm)	その餘 (cm)	外部	内部			
284	Ⅲ区	SX01 瓦土	筒	赤付新輪	黒胎							(6.0)		5GY8-1灰白	5GY8-1灰白	2.8	
285	Ⅲ区	SX01	筒	灰白新輪	黒胎							(4.2)		10Y8-1灰白	N8-灰白	5.8	
286	Ⅲ区	SX01 石内面	筒	赤付新輪	黒胎							(10.8)	6.8	7.5GY7-1明 緑色36 灰	10Y8B-2灰白	4.8	
287	Ⅲ区	SX01 北東	筒	口縁新輪 同輪のやじり	黒胎							(11.2)		10Y8B-2灰白	10Y8B-2灰白	2.8	
288	Ⅲ区	SX01 (南東)	筒	赤付新輪	黒胎							(3.8)		10Y8-1灰白	N8-灰白	4.8	
289	Ⅲ区	SX01 ア字落上七	筒	赤付新輪	黒胎							5.6		7.5Y8-1灰白	7.5Y8-1灰白	5.8	
290	Ⅲ区	SP20 瓦土	筒	筒	筒							(9.8)		7.5Y8-1灰白	7.5Y8-1灰白	1.8米 20と同一器体 分、買入あり	
291	Ⅲ区	SP20 瓦土	筒	筒	筒									2.5GY7-1明 中-7 灰	5Y8-1 灰白	1.8米 20と同一器体 分	
292	Ⅲ区	SP30 瓦土	筒	筒	筒							(3.3)		2.5Y8-3 黄赤	10Y8-1 灰白	3.8	
293	Ⅲ区	SP04 (石除去中 SP01同 北東落上)	杯	赤付新輪+ 同輪+*	筒輪+*							(8.2)	3.2	5Y8-1 灰白	2.5Y4-2 黄赤	7.8	
294	Ⅲ区	SP01 北東	杯	筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+*	筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+* 筒輪新輪+*							(8.8)		N8- 灰白	N8- 灰白	3.8	
295	Ⅲ区	SD01	筒	筒	筒								(21.0)	7.5Y5-1 灰	7.5Y5-1 灰	2.8	
296	Ⅲ区	SD01	筒	筒	筒									5Y7-1 灰白	5Y8-1 灰白	1.8	
297	Ⅲ区	SD01	筒	筒	筒									2.5Y7-3 黄赤	2.5Y8-3 黄赤	1.8	
298	Ⅲ区	SD01 和瓦16 北東	筒	筒	筒							(5.0)	1.5	7.5Y8-4 成黄赤	7.5Y8-4 成黄赤	3.8	
299	Ⅲ区	SD01 東落上部分	筒	不明(付着物) 不明(付着物)	不明(付着物) 不明(付着物)							(6.1)		10Y8B-2 灰白	10Y8B-3 黄赤	2.8	
300	Ⅲ区	SD01 (西落上部分)	筒	筒	筒							(5.4)		2.5Y7-2 黄赤	2.5Y3-1 黄赤	5.8	外面十字付着

第21表 東板元秘常遺跡出土土器観察表(17)

出土 層位	遺構名	方位	種類	器型	高身			胎土			色澤			保存率	備考
					外面	内面	口沿	底面	底径	口径	底径	口径	底径		
301	Ⅲ区	SD01	束腰高 須臾器	鉢	向心片*	向心片*								1.8	未測
302	Ⅲ区	SD01 トレンチ上 り風割*	有脚	碗	碗	碗								1.8	東板元秘常遺 跡Ⅲ区3層
303	Ⅲ区	SD01 21 砂土の 配・風割を 一部含む	土師器 土器	圓鉢	口縁片* 器内底	口縁片* 器内底								1.8	
304	Ⅲ区	SD01 P1	土師器 土器	圓鉢	口縁片* 器内底	口縁片* 器内底								2.8	
305	Ⅲ区	SD01 7 砂より東 部の中 部と風割 を一部含む	土師器 土器	鉢	口縁片* 器内底	口縁片* 器内底								4.8	外面より片着
306	Ⅲ区	SD01 B 一七四	土師器 土器	鉢	口縁片* 器内底	口縁片* 器内底								2.8	
307	Ⅲ区	SD01 配風割を 一部含む	陶器	皿	上半輪縁	上半輪縁				4.4				6.8	底面・底付
308	Ⅲ区	SD01 配風割を 一部含む	陶器	皿	上半輪縁	上半輪縁				(4.7)				6.8	底面
309	Ⅲ区	SD01 東 部より東 部と風割 を一部含む	陶器	鉢	碗	碗				4.7				7.8	底面・底付片着
310	Ⅲ区	SD01 7 砂より東 部の中 部と風割 を一部含む	陶器	圓鉢	向心片*	向心片*								1.8	
311	Ⅲ区	SD01	白磁	皿	底面	底面				(4.6)				5.8	
312	Ⅲ区	SD01 ア・砂と土	白磁	皿	底付底面	底面				(7.4)				1.8	
313	Ⅲ区	SD01	灰付	鉢	碗	碗				(11.2)				3.8	

第 22 表 東坂元秋常通踏出土土器觀察表 (18)

甲本 番号	甲本 地区	遺跡名	層位	種類	形質	瓦葺		土土			法瓦			色瓦		残存率	備考				
						外証	内面	石葺 長さ	半色瓦 内四角	葺材	葺材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外部	内面		
314	Ⅲ区	SD00 (東坂元秋常通踏) 東坂元秋常通踏 東坂元秋常通踏	上層	灰付	圓	灰付無釉	無釉					無	無	無	5GYS/灰白	7YSY8/1灰白	4.8				
315	Ⅲ区	SD01 字之目上	灰付	圓	無釉	無釉						無	無	無	10YS/1灰白	23YS/1灰白	4.8				
316	Ⅲ区	SD04 ②	青磁	灰部	灰付～底無釉無釉							無		6.2)	5G/1無灰	5G7/1無灰	5.8				
317	Ⅲ区	SD04	陶器	圓	口縁部灰付 底無釉(5寸葺)							細・少	1.9		5YR6.6黄	23YR5.6明赤	2.8	口縁十字付			
318	Ⅲ区	SD04 P5	陶器	圓	皿 下平無釉	無釉						中・少		4.2	5Y6.3赤・黄	5Y6.3赤・黄	6.8	跡目黄			
319	Ⅲ区	SD04	上層	陶器	碗	底無釉	無釉					無			5Y7.3黄	5Y7.3黄	1.8	裏 耳入あり			
320	Ⅲ区	SD04 (東坂部分)	下層	陶器灰付	圓	底無釉	無釉					中・少		(12.4)	7.5Y8/1灰白	5Y8/2灰白	2.8				
320	Ⅲ区	和瓦 北北並ち 5.5寸断面	4層	陶器灰付	圓	底無釉	無釉					中・少		(12.4)	7.5Y8/1灰白	5Y8/2灰白	2.8				
321	Ⅲ区	SD04 P4	灰付	圓	灰付無釉	無釉						無	(13.3)	4.2	(7.5)	10YS/1灰白	7.5Y8/1灰白	3.8			
322	Ⅲ区	SD04 ②	灰付	圓	無釉	無釉						無			9.7	5GYS/1灰白	NS/灰白	7.8			
323	Ⅲ区	SD04	上層	灰付	碗	無釉	無釉					無			(10.0)	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1.8			
323	Ⅲ区	SD04	下層	灰付	碗	無釉	無釉					無			(10.0)	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	1.8			
324	Ⅲ区	SD04 P2	灰付	灰	灰付無釉	無釉						無			(4.2)	2.5GYS/1灰白	2.5GYS/1灰白	4.8			
325	Ⅲ区	SD04	上層	灰付	灰	灰付無釉	無釉					無			(10.2)	3.2	(4.2)	2.5GYS/1灰白	NS/灰白	3.8	
326	Ⅲ区	SD04 (北北部分)	下層	灰付	灰	灰付無釉	無釉					無			(11.0)	5.7	(5.4)	2.5GYS/1灰白	2.5GYS/1灰白	2.8	
327	Ⅲ区	SD04 P1	灰付	灰	灰付無釉	無釉						無			6.0)	5GYS/1灰白	NS/灰白	4.8			

第23表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表(19)

期名 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土		度量			色調		残存率	備考
						外面	内面	石灰・赤色胎 長石	角閃石 雲母	砂粒	口径 (cm)	底径 (cm)	その高 (cm)	外部		
228	Ⅲ区	SD04上 掘込(甲) シナ部分	表付	瓶	無軸	無軸							10YR 1灰白	7.5YR 1灰白	3.8	
329	Ⅲ区	SD04 東部部	土層	炊器 土師器	口縁3234* 体付軸付	口縁3234* 体付軸付		中・多	12.5				10YR8.3 灰黄赤	10YR8.4 灰黄赤	3.8	
330	Ⅲ区	SD04	土層	五耳土器	口縁一体土師 3234	口縁一体土師 3234		細・少	12.0				N6 灰	N5 灰	2.8	
331	Ⅲ区	SD04	下層	瓦質土器	瓶	瓶軸付		細・多	26.1				N4 灰	N4 灰	1.8	外観下午茶子付物
332	Ⅲ区	SD04 (東部部分)	下層	不明	?	-		中・多	長さ 19.3	幅 7.1	厚さ 4.5		7.5YR5.1 黄灰色	-	8.8	
333	Ⅲ区	SD04 (東部部分)	下層	不明	?	-		中・多	長さ 20.0	幅 7.0	厚さ 4.3		7.5YR6.1 黄灰色	-	8.8	
334	Ⅲ区	SD06 (ハースブ ロータ)	表付	瓶	瓶軸付無軸	瓶/肩軸付		無			(4.5)		N8 灰白	N8 灰白	4.8	
335	V区	SD01 P1	土層	土師器	杯	杯・不明(727) 収縮止赤付		細・少			7.0		10YR8.4 灰黄赤	7.5YR8.6 灰黄赤	0.8	
336	V区	SD01 (灰 赤トレン チより南)	中層	土師器 土器	酒杯 杯	酒杯・不明(727) 不明(727)		中・多	17.8				10YR8.3 灰黄赤	10YR8.3 灰黄赤	1.8	
337	V区	SD01 (灰 赤トレン チより北)	土層	土師器 土器	壺 壺	口縁3234* 体付軸付		細・多	14.3				2.5YR 2 灰白	2.5YR 2 灰白	2.8	
337	V区	SD01 P2	土層	土師器 土器	壺 壺	口縁3234* 体付軸付		細・多	14.3				2.5YR 2 灰白	2.5YR 2 灰白	2.8	
338	V区	SD01 (灰 赤トレン チより南) 残部付足	中層	土師器 土器	土師 土器	口縁3234* 体付軸付		中・多	25.7				10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	1.8	
339	V区	SD01 5号付足	土層(中層と の境付近)	土師器 土器	不明(727)	不明(727)		中・多					10YR8.2 灰白	7.5YR8.4 灰黄赤	8.8	
340	V区	SD01 (灰 赤トレン チより北) 土層との境付近	土層(灰 赤土との境付近)	白磁	無軸	無軸		無	(10.4)				5Y7.1 灰白	2.5YR 2 灰白	1.8 灰	
341	V区	SD01 (灰 赤トレン チより南)	土層	陶器	天目輪付杯 - 体付軸付	無軸		無	(13.0)				7.5YR4.3 黄	7.5Y7.1 灰白	1.8	
342	V区	SD01 7号器なし	中層	細文土器	細文 土器	不明(727)		中・多	細・少				10YR6.2 灰黄赤	10YR2.1 黒	1.8 灰	

第 24 表 東坂元穴常連跡出土土器観察表 (20)

相文 番号	調査区	遺構名	単位	種類	器種	調整		胎土			数量			色調			備考	
						外面	内面	石灰・ 長石	赤色 角閃石	赤鉄 砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	平均値 (cm)	外部	内部		底面
343	7区			赤土土器	壺	不明(777)								10YR6.2灰黄褐色	10YR7.2に 赤い黄褐色	10YR7.2に 赤い黄褐色	8.8	11条線描文
344	7区	深溝より西 黄灰色シムト		第3部 杯	杯	口縁-体面 赤い黄褐色 赤い黄褐色 赤い黄褐色									25Y7.1灰白		3.8	
345	1区	黒色丸合浦 (0-10cm)		黒色土器 A類	碗	口縁+ 赤い黄褐色									10YR8.2灰白	N5/灰	2.8	
346	2区			黒色土器 B類	碗	口縁+ 赤い黄褐色									N2/黒	N2/黒	1.8条 線	
347	7区	黄灰色シムト		黒土器 須恵器	碗	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									5YR8.1灰白	5YR8.1灰白	5.8	
348	7区			黒土器 須恵器	碗	口縁+ 赤い黄褐色									2.5YR8.2灰白	2.5YR8.2灰白	1.8	
349	7区			黒土器 須恵器	碗	口縁+ 赤い黄褐色									N7/灰白	7.5Y7.1灰白	2.8	
349	7区			黒土器 須恵器	碗	口縁+ 赤い黄褐色									N7/灰白	7.5Y7.1灰白	2.8	
350	7区	黄灰色シムト		黒土器 須恵器	鉢	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色 赤い黄褐色									5Y6.1灰	5YR.1灰白	1.8	
351	7区	黄灰色シムト		黒土器 須恵器	鉢	口縁+ 赤い黄褐色									5YR.1灰白	N4/灰	1.8条 線	
352	7区	黄灰色シムト		土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5Y7.4に 赤い黄褐色	10YR7.2に 赤い黄褐色	3.8	
353	7区	黄灰色シムト 包合層 SC02-位の面		土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5YR8.6黄褐色	2.5YR8.6黄褐色	2.8	
354	6区			土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5YR8.2灰白	2.5YR8.2灰白	8.8	
355	7区			土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5YR8.4黄褐色	2.5YR8.4黄褐色	3.8	
356	7区	遺構跡出		土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5YR8.4黄褐色	10YR8.3黄褐色	3.8	
357	7区	黄灰色シムト		土師器	皿	口縁+ 赤い黄褐色 赤い黄褐色									2.5YR8.6黄褐色	10YR8.3黄褐色	4.8	

第25表 東坂元秋常遺跡出土器観察表(21)

調査地区 番号	遺跡名	層位	種類	調整		粘土			法差			色調		現存率	備考	
				外面	内面	石灰 灰石	赤色灰 角灰石	器厚	口径	器高	底径	その他 (器厚)	外面			内面
336	7区	黄灰色シルト	土埴器	重量	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	8.2	1.5	6.0		2.5YR8-4 或黄褐色 5YR8-4 或黄褐色	3.8	
339	7区	黄灰色シルト	土埴器	重量	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	8.2	1.0	4.6		10YR8-3 或黄褐色 10YR8-3 或黄褐色	6.8	
340	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	9.6	2.6	7.2		2.5YR8-4 或黄褐色 5YR8-3 或黄褐色	2.8	
341	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	10.0	3.0	6.3		10YR8-4 或黄褐色 10YR8-4 或黄褐色	2.8	
342	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	10.6	2.9	6.0		10YR8-2 灰白 10YR8-2 灰白	6.8	
343	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	10.6	3.0	7.2		2.5YR8-2 灰白 2.5YR8-2 灰白	6.8	
344	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	10.9	2.7	7.3		10YR8-3 或黄褐色 10YR8-3 或黄褐色	5.8	
345	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	10.9	3.0	6.6		10YR8-4 或黄褐色 10YR8-4 或黄褐色	6.8	
346	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	11.0	2.6	6.1		10YR8-3 或黄褐色 10YR8-2 灰白	2.8	
347	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	11.4	2.7	7.4		10YR8-3 或黄褐色 10YR8-3 或黄褐色	3.8	
348	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	11.6	3.1	8.3		10YR8-2 灰白 10YR8-2 灰白	4.8	
349	7区	包含層(3層) 黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	11.6	3.3	7.3		10YR8-3 或黄褐色 10YR8-3 或黄褐色	7.8	
350	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	11.8		7.0		2.5YR8-4 或黄褐色 5YR8-4 或黄褐色	2.8	
351	7区	黄灰色シルト	土埴器	杯	口縁部系++ 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+) 底不明(+)				中・多	12.0		7.8		2.5Y7-3 或黄褐色 10YR8-3 或黄褐色	2.8	

第26表 東坂元秋常遺跡出土土器観察表 (22)

調査区 調査番号	遺構名	形状	種類	形状		重量		胎土		法量				色調	残存率	備考	
				外縁	内面	有蓋・非包粒・内包石 瓦石	包粒・内包石 包粒	口径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)				外底
372	7区	土器22	杯	口径=角形底 口径=底径 底不明						11.2	3.9	8.5		2.5Y7.2灰黄	2.5Y8.2暗灰黄	0.8	
373	7区	黄灰色シレット	皿	口径27.5cm 口径25cm						19.5	0.350			2.5Y8.2灰白	2.5Y8.2灰白	1.8未測	
374	7区		土器管 土器	口径27.5cm 底径						22.0				2.5Y7.3灰黄	2.5Y7.2灰黄	1.8	外部十字付着
375	7区		白磁	底径						15.8				5Y8.2灰白	5Y8.2灰白	1.8未測	II-1
376	7区		青磁	底径						14.6				7.5GY7.1明灰黄	7.5GY7.1明灰黄	1.8未測	底面黄点 I-5
377	II区	靑磁22	靑磁	底径										10Y6.2中・黄	10Y6.2中・黄	2.8	底面黄点青磁 I-5
378	7区		黄灰色シレット	底径						13.5				7.5GY7.1明灰黄	2.5Y8.2灰白	1.8未測	底面黄点 I-2
379	1区		黒色包石層 (0-10cm)	底径										2.5Y6.2灰黄	2.5Y7.1灰白	8.8	同底黄点
380	III区	靑磁 シレット 包石下土	染付	底径										NS/灰白	NS/灰白	1.8未測	

第27表 東坂元秋常遺跡出土金属器観察表

調査区	遺構名	形状	種類	法量			材質	備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
142	6区	SJ005	銅片	27	2.2	1.3	563	
143	6区	SN01	銅片	6.6	4.8	2.2	66.19	
144	6区	SD03	銅片	3.0	2.4	1.6	7.57	
252	6区	SP16	ゼット出土	径 2.2	-	0.2	1.92	群付実型
269	6区	SD05	不明	径 2.0	高 1.6	-	3.45	銅合金 器?

第 28 表 東坂元秋常遺跡出土石器觀察表 (1)

圖文番号	調査区	遺物名	部位	器種	器種	法量			石材	備考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
22	2区	SK01		石皿	石皿	1.9	1.2	0.3	0.69	㊦石
23	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	石皿	石皿	1.2	1.2	0.2	0.35	㊦石
24	2区		褐色土層 溝縁	石皿	石皿	2.2	1.3	0.3	0.81	㊦石
25	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	石皿	石皿	2.4	1.4	0.2	0.91	㊦石
26	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	石皿	石皿	2.4	1.7	0.3	1.05	㊦石
27	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	石皿	石皿	3.5	1.2	0.4	1.95	㊦石
28	4区		褐色土層 (20 ~ 30cm)	石皿	石皿	1.6	1.4	0.4	0.75	㊦石
29	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	石皿	石皿	2.3	0.9	0.3	0.77	㊦石
30	4区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	石皿	石皿	1.8	1.0	0.4	0.84	㊦石
31	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	打撃石片丁	打撃石片丁	5.5	5.0	1.1	35.18	㊦石
32	2区		集石 (5/4) 湖底層 7~9号	3号石片	3号石片	5.8	3.3	0.6	15.95	㊦石
33	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	3号石片	3号石片	4.8	6.5	1.0	31.76	㊦石
34	2区		上層粘土	二尖加工 褐色土層片	二尖加工 褐色土層片	3.8	5.0	1.7	23.09	㊦石
35	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	鹿耳土層片	鹿耳土層片	4.3	2.1	2.3	16.82	㊦石
36	2区		上層粘土	鹿耳土層片	鹿耳土層片	4.1	2.4	0.7	11.41	㊦石
37	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	褐色土層片 方部片	褐色土層片 方部片	5.5	3.4	1.1	23.59	㊦石
38	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm) 集石付近	石核	石核	3.8	3.3	1.0	18.92	㊦石
39	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	石核	石核	3.7	3.3	1.1	20.82	㊦石
40	2区		褐色土層 (集石付近) (10 ~ 20cm)	石核	石核	6.0	3.9	1.0	19.48	㊦石
41	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	石核	石核	6.0	3.9	2.1	53.21	㊦石
42	2区		褐色土層 (0 ~ 10cm)	石核	石核	7.8	7.1	2.2	125.19	㊦石
43	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	褐色土層核	褐色土層核	4.3	2.3	0.8	13.61	㊦石
44	2区		褐色土層 (10 ~ 20cm)	褐色土層核	褐色土層核	4.3	3.9	1.1	25.10	㊦石

第29表 東坂元秋常遺跡出土石器観察表(2)

標本番号	調査区	遺跡名	埋没	器種	寸法				石種	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
45	2区		黒色包合層 (10 ~ 20cm)	槌状石核	4.3	4.6	0.8	18.85	444件	
46	2区		黒色包合層 (0 ~ 10cm) 集石付近	槌状石核	4.2	6.3	0.9	36.17	444件	
47	2区		黒色包合層 (0 ~ 10cm)	槌状石核	4.0	7.6	1.4	41.53	444件	
48	2区		黒色包合層	槌状石核	4.6	5.1	1.3	46.51	444件	
49	2区		黒色粘土層 (10 ~ 20cm)	槌状石核	5.9	5.1	1.1	33.12	444件	
50	2区		黒色粘土層 集石付近	槌状石核	4.3	8.0	2.3	77.74	444件	
51	2区		黒色粘土層 集石部分	槌状石核	8.8	3.8	0.8	27.14	444件	
52	2区		埋切り 遺棄体部	槌状石核	5.0	7.8	2.5	117.72	444件	
53	2区		黒色粘土層 (10 ~ 20cm)	槌状石核	8.5	7.7	2.1	136.21	444件	
54	2区		黒色粘土層 (10 ~ 20cm)	槌状石核	6.2	9.7	1.7	121.91	444件	
141	6区			礫石	4.7	2.8	1.2	16.88	礫石否?	
251	V区	SP50 埋土		礫石	18.5	6.7	6.6	199.04	礫石否?	
281	7区	SI03		礫石	8.5	7.1	4.2	294.99	礫石	
281	7区		埋没 黒色包合層シルト層	石皿	2.0	1.5	0.3	0.57	黒曜石	
282	7区		試掘より西 黒灰色シルト	石皿	1.9	1.6	0.3	0.99	444件	
283	7区		試掘より西 黒灰色シルト	石皿	2.0	0.9	0.3	0.67	444件	
284	7区		試掘トレンチ	石皿	2.3	2.0	0.4	1.58	444件	
285	II区	SI01 SI		石皿	2.5	1.6	0.4	1.37	444件	
286	7区		ハイト中	石皿	2.9	1.3	0.4	1.28	444件	
287	6区		黒色包合層	石皿	3.4	1.1	0.4	1.42	444件	
288	6区	SI03		石皿	1.5	1.7	0.3	0.75	444件	
289	II区	SI02土切られ る包合層		石皿	1.5	1.8	0.3	0.76	444件	
290	VI区	上層土埋没部 (M層 埋土)		石皿	1.6	1.4	0.3	0.51	444件	

第30表 東坂元秋常遺跡出土石器観察表(3)

標文番号	調査区	遺構名	部位	器種	法部			石材	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
391	6区	SD08		石皿	1.8	1.5	0.5	0.77	424付
392	7区	SD09		石皿	2.1	1.4	0.4	0.81	424付
393	7区	上面土層間 (Mn基準上)		石皿	2.5	2.2	0.3	0.79	424付
394	7区		武原より西 褐色色シロト	石皿	2.4	1.7	0.3	0.82	424付
395	6区		東部 黑色粘質土	石皿	2.8	1.8	0.4	1.54	424付
396	8区	SD01		石皿	3.8	1.2	0.5	1.85	424付
397	6区		黑色粘質土	石皿	3.0	1.2	0.5	1.85	424付
398	6区		黒赤中	石皿	3.7	1.4	0.4	1.86	424付
399	8区	視覚32		石皿	2.8	2.1	0.5	2.76	424付
400	6区	SD01		石皿	2.8	1.3	0.2	1.07	424付
401	7区		河原トレンチ	石皿	1.8	1.1	0.4	0.95	424付
402	7区		表土層部	石皿	3.3	2.7	0.6	5.06	424付
403	8区	SP20 埋土 (深い部分)		打製石片丁	6.4	3.3	1.0	13.91	424付
404	8区	視覚17		29% ⁺	4.4	5.4	1.1	26.78	424付
405	6区		黑色粘質土	29% ⁺	7.8	3.9	1.2	36.61	424付
406	1区	SD10		褐色石核	4.3	3.8	0.8	18.06	424付
407	6区		遺構体部	褐色石核	4.0	6.7	0.8	24.41	424付
408	7区	SD01		褐色石核	5.0	6.1	1.5	40.26	424付
409	8区	SD01	7層	褐色石核	8.5	3.8	1.3	37.73	424付
410	6区	SD01	TS取リ上F. S1	石核	14.5	30.0	3.3	61.665	424付